非常通報装置

White Lock 110

取扱説明書

製品をお使いになる前に、本書をお読みください

はじめに（必ずお読み下さい）

この度は、「WhiteLock110」をご利用頂きまして、誠にありがとうございます。
本製品は、外部からの入力信号に応じて一般電話回線や携帯電話機から、携帯電話機、ＰＨＳ電話機、一般電話機などに音声や携帯メールで自動通報する装置です。
製品は一般回線用（WhiteLock110A）と、携帯電話機用（WhiteLock110D）の２つのタイプがあります。
この説明書は両タイプ兼用ですので、必要に応じて62ページからの「タイプ別に異なる部分」の説明をご覧ください。

本製品は、ご購入直後の状態ではそのまま使用することができません。製品サイトより設定用ソフトウェアをダウンロードしていただきパソコンにインストールし、設定を行う必要があります。
また、音声通報する場合は録音も行って下さい。
設定後は本書の説明にしたがって動作確認をしてからお使いください。

本書では、一般回線用（WhiteLock110A）を「WL110A」、携帯電話機用（WhiteLock110D）を「WL110D」、タイプに依存しない場合は「WL110」と記述しているところがあります。

ご使用の前に、この「取扱説明書」をよくお読みの上、内容を理解してからお使いください。
この説明書はお読みになった後も、本製品の側などいつも手元においてお使いください。

製品バージョンの確認や最新情報

製品タイプの区別は、Q&A の「WL110A」と「WL110D」を区別する方法を参照してください。
製品のバージョンアップ及び特殊仕様のリリース情報は、ホームページでお知らせします。

「White Lock 110A」を内線で使う場合

PBX で使用される場合、下記の全ての条件と一致するか確認してください。
※受話器を上げたとき→DT(発信音)…400Hz の連続、または、PDT(内線発信音)…400Hz 0.25 秒 ON 0.25 秒 OFF が聞こえること。
※相手が話中のとき→BT(話中音)…400Hz 0.5 秒 ON 0.5 秒 OFF が聞こえること。
※相手を呼び出しているとき→RBT(呼出音(プルプル音))…400Hz 1 秒 ON 2 秒 OFF が聞こえること。
※相手が電話を切断したとき→BT(話中音)…400Hz 0.5 秒 ON 0.5 秒 OFF が聞こえること。
PBX によっては電話を切断した後の話中音が４回しか鳴らないものなどもあります。ご注意ください。

「White Lock 110D」に接続できないデジタル携帯電話機の機種について

※動作確認がとれた機種は弊社ホームページを参照してください。
※携帯電話機に付属している充電用 AC アダプター(バッテリーではありません)の出力電圧が 5.5V〜5.7V

の範囲でないときは、63ページの説明に従って設定してください。

Ｃメールについて

２００３年6月よりＫＤＤＩはＣメールを一部機能停止しました。これによりＣメールへの通報はできません。

蓋を開けて閉める時には

本体の蓋を開けて閉める時には LED やボタンがケースに当たらないように注意してください。無理に閉めようとすると破損する場合がありますのでご注意下さい。

よくある質問と答え

※ **呼出音が鳴りすぐ受話器を取ると、また電話がかかってくる**

通報先の呼出音を２回以上鳴らしてから受話器をとってください。受話器をとるのがはやいと何回も電話をかけてしまいます。(WL110A)

※ A タイプと D タイプの区別の仕方は「Ｑ＆Ａのタイプ共通」71ページを参照してください。

※ **通報先に番号非通知で電話がかかる**

通報先の電話番号の先頭に 186 を付けてください。（Dタイプ）

製品の最新情報、バージョンアップはインターネットでご確認できます。
製品ホームページ　http://www.adocon.co.jp/又はhttp://www.adocon.jp/

※本書に記載されている内容は、予告なく変更される場合があります。あらかじめご了承ください。
※本書の内容を無断で転載することは禁止されています。

特　徴

・用途に応じた２タイプ

携帯電話機から通報する「WL110D」と一般回線から通報する「WL110A」があります。
２つのタイプは、使用する回線の種類が異なりますが、仕様はほとんど同じです。
「WL110A」は、PBX交換機の内線間の通報や外線へ接続するときの発信機能を装備しています。
「WL110D」は着信機能があります。

・接点入力４点＋センサー用電源

入力点数が４点あり様々なセンサーや機器類が接続できます。また、センサー等の電源供給用としてセンサー用電源を装備しています。

・外部入力毎にＩＣ録音された内容で自動通報

圧縮無し直接録音方式で音質良好。録音は何度でも可能、録音内容は半永久的に保持。

・最大６ヵ所までの通報が可能

「WL110D」、「WL110A」とも最大６ヵ所までの通報先の指定が可能です。

・通報終了の条件も指定可能

通報先毎に「必ず通報」するか「何所か１ヵ所」に通報できたら終了を選べます。リダイヤル回数も設定できます。

・携帯メールへの通報も可能

英数カナ漢字文字で通報。全角で50文字、半角で100文字のメッセージを送信可能です。

・状態の確認が可能（WL110D）

「WL110D」に一般回線や携帯電話で電話をかけ、現在の入力状態を音声で確認できます。発信者番号で着信の受付を制限することもできます。

・「WL110D」では携帯電話機への繰り返し自動充電機能付き

長期にわたってメンテナスフリーで使えます。

・停電保証1時間以上を確保、バックアップ電池付き

006P型ニッケル水素充電池を標準添付。

・停電・復電通報を標準装備

外部から停電信号を接続したりする必要がありません。設定ソフトにチェックを入れるだけで有効となります。

・小型で制御盤内への組込が容易

本体重量は約230gと軽量です。本体サイズも非常にコンパクトなので制御盤内への取り付けも簡単に行えます。

・設定用パソコンソフト（Windows 98SE、Me、2000、XP用）

ワープロソフトなどと比べてインストールも設定もすごく簡単です。最新の設定ソフトは、弊社製品サイトからいつでもダウンロードしてご利用できます。製品には、通信ケーブルも標準添付しています。

・入力信号の選択が可能

入力がONになったときに通報するか、OFFになったときに通報するか入力毎に個別に設定が可能。設定ソフトにチェックを入れるだけで切り替えできます。

・低価格

他社の半分以下の超低価格。もう通報装置にお金をかける必要はありません。

目　次

ご使用の前に 9
略称、商標について 9
制限事項 9
安全にお使いいただくために必ずお守りください 10
設置場所について 11
お願い 11
WhiteLock100New との違い 11
パッケージ内容の確認 12
PBX での使用について 13

各部の名称とその機能 15
本体外観 15

呼出の種類と通話料金 16
通報の種類 16
音声通報 16
携帯メール 16
タダ電通報 16
トーンモデムへ通報 16
標準設定の時 17
全解除呼出設定 17
個別解除呼出 18
個別解除呼出と全解除呼出の両方を指定している場合 18
停電時発信 19
定期通報 19
１回の通報にかかる通話時間 19

通報終了の条件 20
１つの通報先を終了する条件 20
複数の通報先を終了する条件 20
通報を終了するまでに発生したイベント 22
リダイヤルについて 22
注意事項 22

状態の確認 23
入力信号の状態を確認するとき 23
入力信号の状態を音声で聞く 23
確認できる人を制限する 23
注意事項 23

動作設定 24
録音再生 24
設定に使用するパソコン 26
設定ソフトのインストール 27

設定ソフトウェアの起動 29
通報先の設定 31
通報先の種別 31
通報先の電話番号 32
外線発信番号(WL110A のみ) 33
留守番電話対応 34
携帯メールセンター 36
携帯メールセンターの編集 38
WhiteLock 集中監視専用モデムへ通報する場合 40
通報終了条件 40
全体の設定 41
電源 ON 時に 60 秒間、入力信号を無視する 41
停電や復電時に通報する 41
定期通報する 41
リダイヤル回数 42
解除呼出の方法 42
電話回線の種類(WL110A) 42
入力信号の接点仕様 42
入力信号の判定時間（ミリ秒） 43
状態を確認する(着信許可)(WL110D) 43
送信メッセージの編集 44
文字の種類 44
識別コード 45
入力信号１～４のON／ＯＦＦ 45
全解除 45
停電・復電 46
定期通報 46
文字数 46
通信ポートの確認 46
通信ポートを自動的に検出する 47
通信ポート指定 47
本体とパソコンの接続 47
設定内容の転送 47
ポートが使用中だった場合 50
本体から設定内容を読み込む 50
設定内容の保存と読み込み 51
新規作成 52
設定ファイルを開く 52
上書き保存 52
名前を付けて保存 52
本体から設定を読み込む 52
A タイプの設定・D タイプの設定 52
終了 52
以前に編集したファイル 52
動作確認 53
設置方法 54

設置場所を決める........54
接続工事........54
本体側の電話回線........54
入力端子接続........54
センサー用電源+V 端子........55
信号入力内部回路........56
ＡＣアダプタの接続........56
運転の開始........56

通報の受信........57
受信装置........57
音声通報を電話機で受信したとき........57
携帯メールを通報先に指定した場合........57
識別コード部の表示について........57

動作モニター........58
表示モニターランプ........58
起動時........58
通報の状態から見たとき........59
ランプの点灯状態から見たとき........60

停電保証について........61
内蔵電池........61

タイプ別に異なる部分........62
携帯タイプ「WL110D」........62
携帯電話機の設定........62
携帯電話機の接続........62
携帯電話機への充電........62
携帯電話機の充電電圧の設定........63
使用上の注意事項........65
一般回線タイプ「WL110A」........66
他の電話機や FAX などの回線と併用するとき........66

Ｑ＆Ａ　困ったときにご覧下さい........69
携帯タイプ「WL110D」........69
一般回線タイプ「WL110A」........70
タイプ共通........72
一般的なご質問........72
通報・設定についてのご質問........75
携帯メールについてのご質問........76
その他のご質問........77
設定ソフト........77

こんなときには........79
設定ソフトウェアのアンインストール........79
本体を清掃するときは........80

Ａタイプ・Ｄタイプ共通仕様........81

「White Lock 110」本体........81
設定ソフトウェア........82
インターフェース仕様........82
外形図........83
付録........84
文字コード........84
更新履歴........85
バージョン........86

ご使用の前に

略称、商標について

記載の会社名または製品名は各社の登録商標です。

制限事項

●本製品は日本国内での使用を目的に設計されています。国外でのご利用は出来ません。
●本体と接続可能な電話機（回線）は下記の通りです。

「WL110A」の場合

1. NTT 仕様で２線式のプッシュ回線またはダイヤル回線です。ISDN 回線の場合は、ターミナルアダプタ(TA)のアナログポートに接続できます。
2. NTT 仕様のアナログ PBX 交換機を介して接続する場合に、外線発信を行う設定にすると、指定番号の発信を行ってから約 1 秒待ってダイヤルを開始します。外線発信番号と待機時間は設定で変更できます。また、使用する回線で以下の音が鳴る必要があります。
   - 受話器を上げたとき→DT(発信音)･･400Hz の連続、または、PDT(内線発信音)･･400Hz 0.25 秒 ON 0.25 秒 OFF が聞こえること。
   - 相手が話中のとき→BT(話中音)･･400Hz 0.5 秒 ON 0.5 秒 OFF が聞こえること。
   - 相手を呼び出しているとき→RBT(呼出音(CPT))･･400Hz 1 秒 ON 2 秒 OFF が聞こえること。
   - 相手が電話を切断したとき→BT(話中音)･･400Hz 0.5 秒 ON 0.5 秒 OFF が聞こえること。

「WL110D」の場合

1. 携帯電話機のみに接続できます。携帯電話機の種類によっては、正常に動作しない機種もありますのでご注意下さい。
2. 使用できる携帯電話機については弊社製品サイトを参照してください(http://www.adocon.co.jp/)又は(http://www.adocon.jp/)
3. 携帯電話機に付属している AC アダプター(バッテリーではありません)の出力電圧が 5.5V ～5.7V の範囲でないときは、63ページの説明に従って設定してください。

●このような場合は利用できません。

「WL110A」の場合

1. デジタル式携帯電話機、PHS、cdmaOne、ビジネスホン、ホームテレホン、４線式電話機、専用線、デジタル PBX に接続することは出来ません。

「WL110D」の場合

1. 使用できない携帯電話機については弊社製品サイトを参照してください(http://www.adocon.co.jp/)又は(http://www.adocon.jp/)

本体の操作について

●電源スイッチを OFF にした直後に ON にすると内部 CPU が正しく起動しないことがあります。
電源スイッチを OFF にして、再び ON にする際には OFF の後３秒以上待って ON にして下さい。
●電源プラグを差し込む場合は本体の電源スイッチを OFF にした状態で差し込んでください。
●設定ソフトで設定を行った後は実際に発信させて受信できるか確認して下さい。
●接点毎に異なる通報先の設定はできません。
●出荷状態では設定されていません。この状態では入力信号が「有り」になっても通報しません。
●再呼出機能については、同一の通報先を複数設定することにより対応しています。

本体内蔵の充電池について

●出荷時には完全に充電されておりませんのでご注意ください。商用電源（AC アダプタ）を接続して、72 時間経過すれば満充電となります。

安全にお使いいただくために必ずお守りください

本商品は以下の注意事項をよくお読みいただき正しくお使いください。
間違った使い方をされますと、感電、火災や機器の故障が発生するおそれがあります。
安全にお使いいただくために必ずお守りください。

・ 本商品を人命に直接関わる医療機器のような、極めて高い信頼性や安全性を必要とされる設備には接続しないでください。また、携帯電話機を利用する際には電波の影響を受けやすい機器などの近くでのご使用はお止めください。
・ 本商品の故障、誤動作、不具合、あるいは停電等の外部要因によって、生じた損害につきまして、弊社は一切その責任をおいかねますので、あらかじめご了承ください。
・ 本体もしくはそれに接続されている部分から異臭がしたり、過熱や煙が出たりする場合は、ただちにご使用を止め、電源を切り、取り外してお買い上げの販売店、または弊社までご相談ください。
・ 本体、及び付属機器を分解・改造しないでください。
・ 本体は、屋内での使用を前提に設計されています。屋外でご使用の際には使用条件定格内になるように工夫してご使用ください。
・ 本体内部に異物等が入らないようにご注意ください。
・ AC アダプタは必ず付属のものをご使用ください。他の製品の流用は絶対にお止め下さい。
・ 通報装置は、登録された電話番号が正しく設定されているかどうか認識できません。従って、誤った電話番号を登録されると内容によっては多額の電話代がかかったりする場合があります。ご利用の前には設定後に動作試験(メール通報の場合メールの受信を確認してください)を必ず実施してからご使用下さい。また通報先に登録してある電話の解約の際には通報装置の設定修正・動作試験を行ってください。

設置場所について

本体を次のような場所に設置しないでください。動作が不安定になったり、おもわぬ火災や故障の原因になったりする場合があります。

・ 急激な温度変化や湿度変化があったり、結露したりするような場所。
・ 直射日光があたる場所。
・ 水気、火気のある場所。
・ 粉塵等のほこりの多い場所。
・ 不安定な場所や振動がある場所。
・ 強い磁気や電磁波を発生する機器の近く。
・ 腐食性ガスのある場所。
・ 気化した薬品や化学反応をおこす様な場所、空気中に塩分が含まれている場所。

お願い

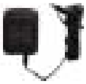
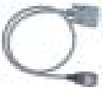
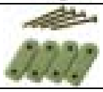
本体に接続する携帯電話機の設定などは、携帯電話機に付属の説明書をお読みください。
本体やケーブル等は、小児の手の届かない場所に保管、設置してください。
長期間にわたって無人で使用する場合は、必ず定期的に保守/点検を行ってください。

WhiteLock100New との違い

・ 携帯メールへ通報可能になりました。
・ 「WL110A」で極性反転機能の無い PBX 交換機、TA でも使用可能になりました。
・ タダ電通報が可能になりました。
・ 本体から設定内容を読み出すことが可能になりました。
・ リダイヤル回数を指定できるようになりました。
・ 定期通報が可能になりました。
・ 入力信号の判定時間が設定できるようになりました。
・ 停電の判定時間が設定できるようになりました。
・ 「WL110D」では接続した携帯電話に電話をかけて現在の接点入力を音声で確認できるようになりました。電話番号により着信を制限できます。

パッケージ内容の確認

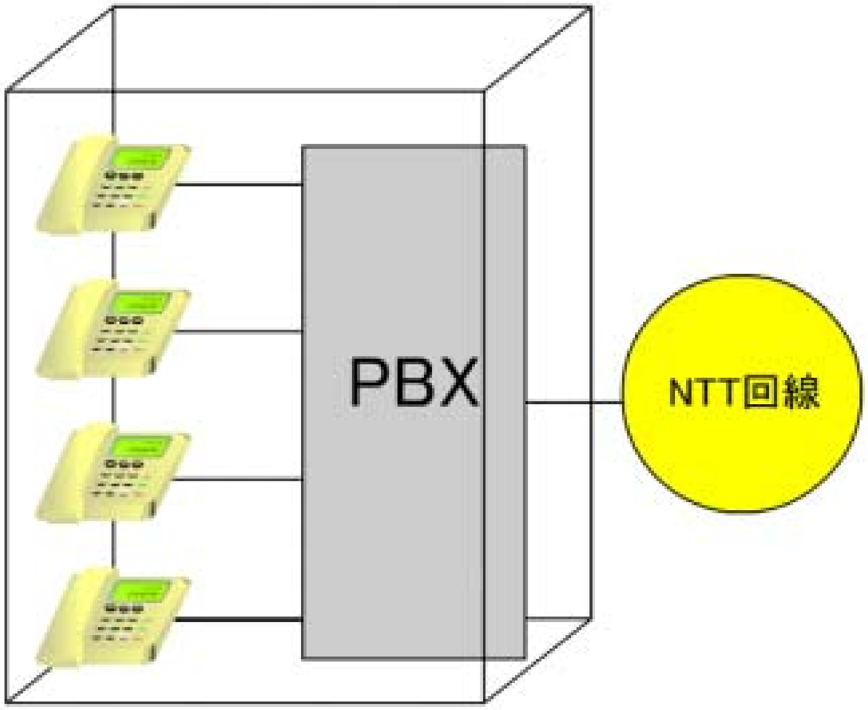
製品をご使用になる前に、パッケージに以下のものが全て揃っているか確認してください。
不足しているものがございましたら、お買い上げの販売店、または弊社までご連絡ください。

名称		WL110A	WL110D
本体		○	○
通信ケーブル（1.5m）		○	○
ＡＣアダプター		○	○
イヤホンマイク		○	○
端子台ソケット		○	○
モジュラーケーブル（２m）		○	―
携帯ケーブル		―	○
バックアップ電池１個		○	○
外部取付足		○	○
保証書	―	○	○

※図は、実際のものと多少形状等が異なる場合がありますのでご了承ください。
※携帯電話機は本製品に付属しておりません。
※取扱説明書、設定用ソフトウェアは本製品には付属しておりません。
取扱説明書、設定用ソフトウェアは製品のページから最新版をダウンロードしてお使い下さい。
製品サイト　http://www.adocon.co.jp/**又は**http://www.adocon.jp/
取扱説明書（A5 版）や、設定用ソフトウェア（CD 版）を別途購入して頂くことも可能です。ご購入の際には販売店、または弊社までお問い合わせ下さい。

PBX での使用について

PBX（構内交換機）とは、同一のビル内、工場内などで使う内線電話の交換機のことです。



WL110A は NTT 仕様の回線で動作するように設計されていますが、内線でも使用することができます。しかし、PBX の機種によっては使えない場合があります。 WL110A を内線で使用する場合は、次項のことを確認してください。

PBXの仕様で確認するところ

受話器を上げたとき	ＤＴ（発信音）…400Hzの連続、または、 ＰＤＴ（内線発信音）…400Hz 0.25秒ON 0.25秒OFF が聞こえること。
相手が話中のとき	ＢＴ（話中音）…400Hz 0.5秒ON 0.5秒OFF が聞こえること。
相手を呼び出しているとき	ＲＢＴ（呼出音）…400Hz 1秒ON 2秒OFF が聞こえること。
相手が電話を切断したとき	ＢＴ（話中音）…400Hz 0.5秒ON 0.5秒OFF が聞こえること。
電話を切断した後の話中音が鳴り続けること。４回鳴って無音になってしまうＰＢＸでは駄目です。	

※　発信音が500HzのPBXや、話中音が440HzのPBXもあります。これらはPBXのメーカーに問い合わせてみてください。

※　これらの周波数はPBXの設定で変更可能な場合があります。PBXのメーカーか設置業者に問い合わせてみてください。

※　音声通報の場合、通報を受けた電話機で＃を押すと通報終了となります。PBXで電話を切ったあとの話中音の周波数が違う場合でも、＃を押すことで通報終了とさせることができます。

その他の注意点

外線で電話番号の最初に「186」を付けると電話がかからないPBXもあります。この場合は「186」を付けない設定で使用してください。

携帯メールを使用する場合

内線から携帯メールを送信する場合、一般回線から携帯メールを送る場合とタイミングが異なり、正常に送れない場合があります。これは電話をかけてから実際につながるまでの時間が、一般回線からと内線からでは違うためです。WL110Aは送信する電話番号やメッセージを送信するタイミングを設定ソフトにより調節できますので、以下のやり方で調節してください。

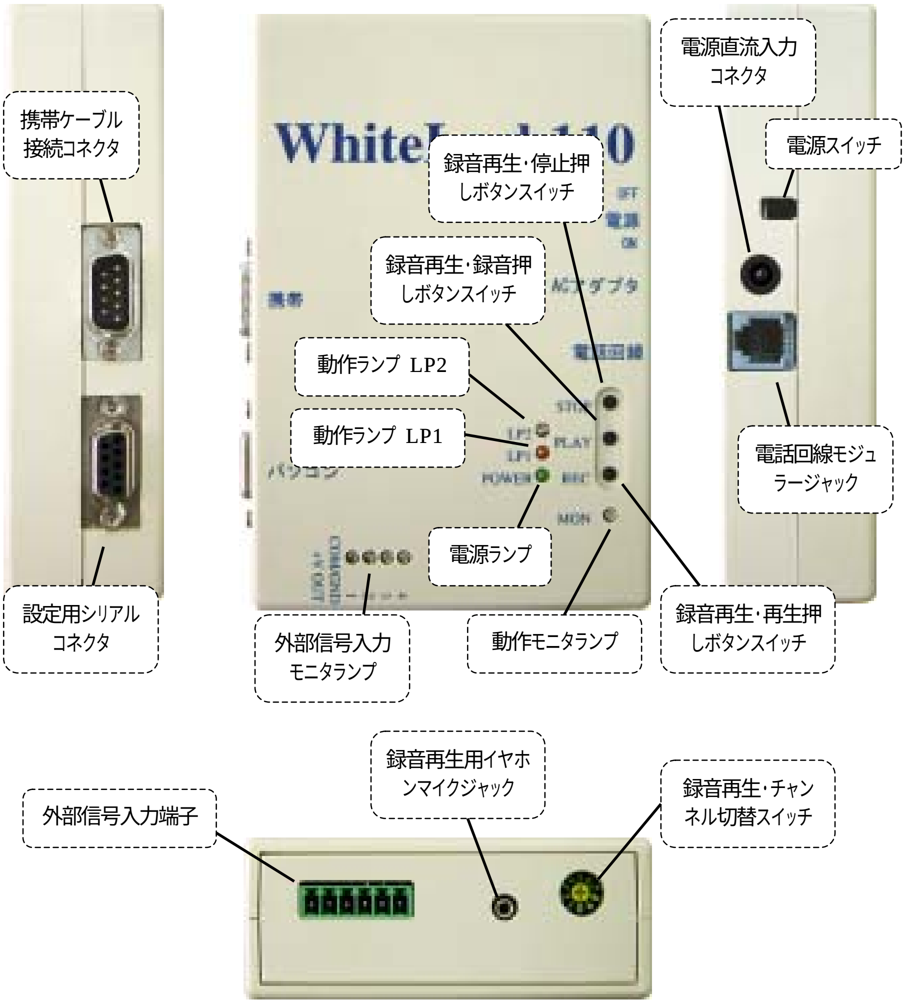
まず、通報しているときの音声をモニター（聞く）する必要があります。モジュラー分配器を用意して図のように接続します。

1. 電話機の受話器は下ろしておきます。
2. WL110Aで携帯メールへ通報させます。
3. WL110AのLP1が点灯したら電話機の受話器を取って電話のやり取りを聞きます。
4. メールセンターへ電話がかかるか。センターからアナウンスが聞こえるか。などを確認します。
5. タイミングの調節は設定ソフトの携帯メールセンターを「ユーザー設定」にしてから、手順文字列を変更することで可能です。

各部の名称とその機能

本体外観

左側面　　正面　　右側面



底面

呼出の種類と通話料金

通報の種類

通報には「音声通報」、「携帯メール通報」、「タダ電通報」と「トーンモデム」の４種類があります。

音声通報

音声通報は、一般電話、携帯電話、PHS 等へお客様がご自分で録音した音声で通報します。

携帯メール

携帯メールは、設定ソフトで設定した文字メッセージを携帯電話に送信します。設定を変えることでドコモのショートメール、ボーダフォンのスカイメールに携帯メールとして送信できます。

タダ電通報

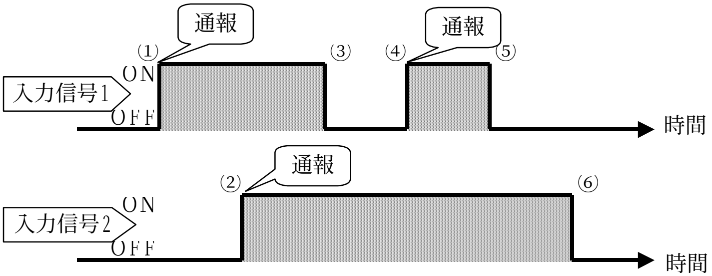
タダ電通報は、一般電話、携帯電話、ＰＨＳの呼出音を鳴らして電話を切ります。呼出音を鳴らすだけなので通話料金はかかりません。使い方としては、通報先の着信履歴に記録されるのでそれを見て確認します。ＷＬ110Ｄは一般電話から通報元に電話をかけて確認することも出来ます。
通報先が電話にでてしまっても「WL110」はすぐ電話を切ります。この場合通話料金がかかってしまいます。電話機によっては、呼出音を鳴らさずに電話を取る場合があります。その場合も料金が掛ってしまいます。たとえば、留守番電話サービスやドライブモードなどです。ご注意ください。

トーンモデムへ通報

トーンモデムへ通報は、弊社製品のトーンモデムへ文字メッセージで通報を行います。トーンモデムをパソコンに接続し通報を集中監視することができます。

標準設定の時

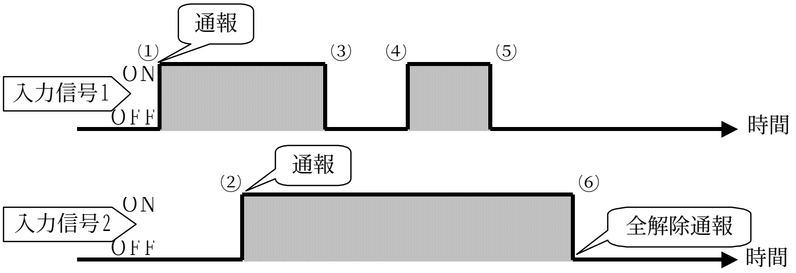
入力信号が「有り」になったときに通報を行います。



1．**入力信号１**「有り」…通報する
2．**入力信号２**「有り」…通報する
3．**入力信号１**「無し」…通報しない（個別解除呼出の設定がしていないとき）
4．**入力信号１**「有り」…通報する
5．**入力信号１**「無し」…通報しない（個別解除呼出の設定がしていないとき）
6．**入力信号２**「無し」…通報しない（全解除呼出の設定がしていないとき）

全解除呼出設定

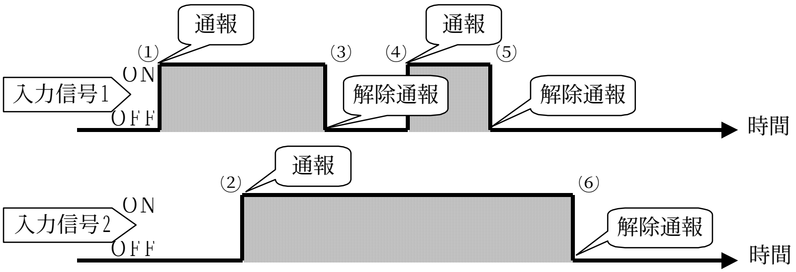
全ての入力信号が「無し」になったときに解除通報を行います。
既に通報済みの入力は、他の入力が「有り」のときには無視され、変化しても通報しません。全入力が「無し」になった後に「有り」になると通報します。



1. **入力信号1**「有り」…通報する
2. **入力信号**2「有り」…通報する
3. **入力信号**1「無し」…通報しない（個別解除呼出の設定がしていないとき）
4. **入力信号**1「有り」…通報しない（既に通報済みであり、入力2が「有り」であるため）
5. **入力信号**1「無し」…通報しない（個別解除呼出の設定がしていないとき）
6. **入力信号**2「無し」…通報する（全解除呼出の設定がしてあるから）

個別解除呼出

各入力信号が「無し」になると解除呼出を行います。
この設定をすることで、センサーなどの信号出力が誤報検知を出したとき、すぐに復旧すれば解除呼出によって誤報の確認が出来ることもあります。
個別解除呼出に設定すると、入力変化の度に通報しますから通報頻度が高い場合は通話料が多くかかります。入力信号が頻繁に変わるところで設定する場合は注意が必要です。
通報先が「携帯メール」か「トーンモデム」の場合のみ通報します。



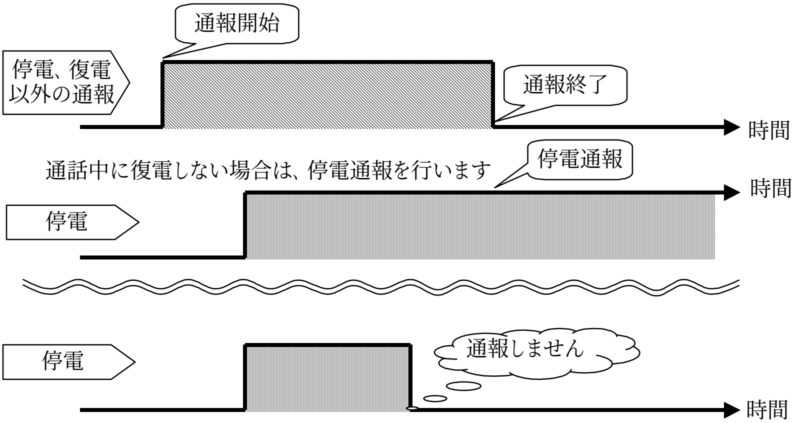
1. **入力信号1**「有り」…通報する
2. **入力信号**2「有り」…通報する
3. **入力信号**1「無し」…通報する（個別解除呼出の設定がしてあるから）
4. **入力信号**1「有り」…通報する（個別解除呼出の設定がしてあるから）
5. **入力信号**1「無し」…通報する（個別解除呼出の設定がしてあるから）
6. **入力信号**2「無し」…通報する（個別解除呼出の設定がしてあるから）

個別解除呼出と全解除呼出の両方を指定している場合

個別解除呼出と全解除呼出の両方を指定している場合は、個々の解除呼び出しを行い、全ての入力が解除になる最後の解除呼び出しが個別解除呼出ではなく全解除呼出になります。

停電時発信

停電や復電があったときに通報します。「停電や復電時に通報する」を選択した場合は、停電時、復電時ともに通報します。携帯メールに通報するときは、停電時のメッセージ、復電時のメッセージとなります。停電通報は「全解除呼出」や「個別解除呼出」とは関係なく、別の呼出として通報します。
停電保証電池が無くなった場合、本体は停止します。復電しても復電通報は行いません。



定期通報

設定で「定期通報する」にすると、指定して時間毎に通報を行います。1時間毎から255時間(約10日)毎に設定できます。例えば、48時間毎に定期通報させれば、2日毎に通報が来ますので装置が正常に動作しているか確認できます。
※定期通報は通報先の種類が「携帯メール」か「トーンモデム」の場合のみ通報します。
※1日で約10分時間がずれる場合があります。

1回の通報にかかる通話時間

携帯メール、トーンモデムへ通報するときは、文字数により通話時間が変わります。全角1文字送信するのに2秒、半角1文字送信するのに1秒かかります。10文字の全角文字メッセージを送信する場合は、電話をかけたり、切ったりする時間を含めて40秒程度です。

音声通報の場合は、受信側が受話器を上げている時間によって異なります。但し、通報1回当たり最大120秒を過ぎると自動的に電話を切ります。
※　この場合、通報が正常に終わっていないものと判断し、リダイヤルします。

タダ電通報の場合は、呼出音を鳴らすだけなので通話料はかかりません。

通報終了の条件

１つの通報先を終了する条件

それぞれの通報先で通報が終了したと判定される条件。

- 音声通報の場合、通報先が電話に出て 120 秒以内に電話を切ると、その通報先への通報は終了となります。
- タダ電通報の場合、本装置が呼出音を確認できたら、その通報先への通報は終了となります。通報先の呼出音が鳴る回数は不定です。
- 携帯メールの場合、通報先が電話に出て文字メッセージを送信後、電話が切れればその通報先への通報は終了となります。
- 通報先が話中や、通報先の携帯電話が圏外か電源 OFF の場合、再度電話をかけます。
- [WL110A]音声通報の場合、通報を受けた電話機で＃を押すと通報終了となります。PBX で電話を切ったあとの話中音の周波数が違う場合でも、＃を押すことで通報終了とさせることができます。

複数の通報先を終了する条件

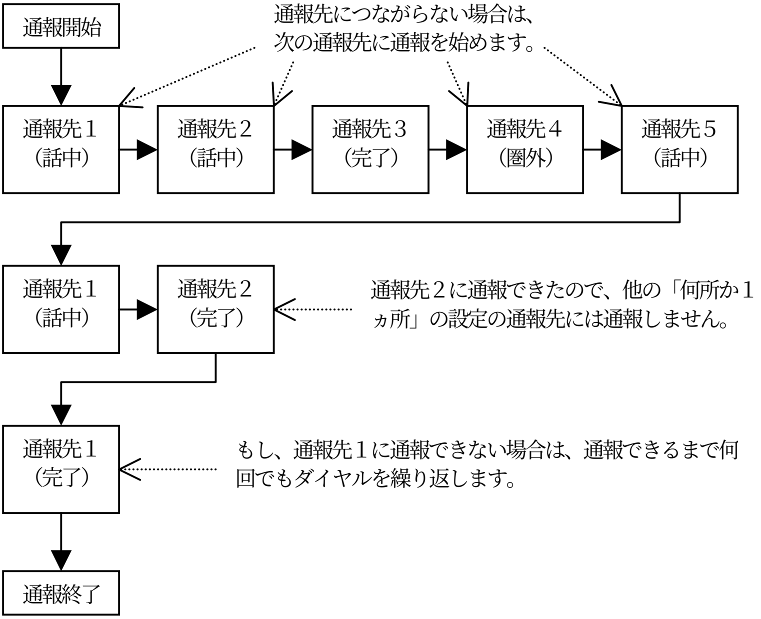
- 通報する順番は通報先１～６の順番に行います。
- 全ての通報が終了するまで通報先１～６を繰り返し行います。
- 通報が終了した通報先には通報しません。順番を飛ばします。
- 通報先が話中、圏外などで通報が成功しなかった場合は、次の通報先を試みます。

- 複数の通報先を設定した場合、「必ず通報」か「何所か１ヵ所」の設定により終了条件が変わります。
- 「必ず通報」の設定をした通報先は、他の通報先とは関係なく成功するまで行います。
- 「何所か１ヵ所」の設定をした通報先が、１ヵ所なら必ず通報します。２ヵ所以上ならその内、何所か１ヵ所でも通報できれば、他の通報先には通報しません。
- ６ヵ所とも「必ず通報」の設定をしていれば６ヵ所とも通報が終了するまで繰り返します。６ヵ所とも「何所か１ヵ所」の設定をしていれば６ヵ所の内、何所か１ヵ所に通報成功すれば、他の５ヵ所には通報しません。

例：通報先を５ヵ所に設定したとき

通報先の受信装置の種類

通報先１	：電話機	必ず通報
通報先２	：電話機	何所か１ヵ所
通報先３	：携帯メール	必ず通報
通報先４	：携帯電話機	何所か１ヵ所
通報先５	：電話機	何所か１ヵ所

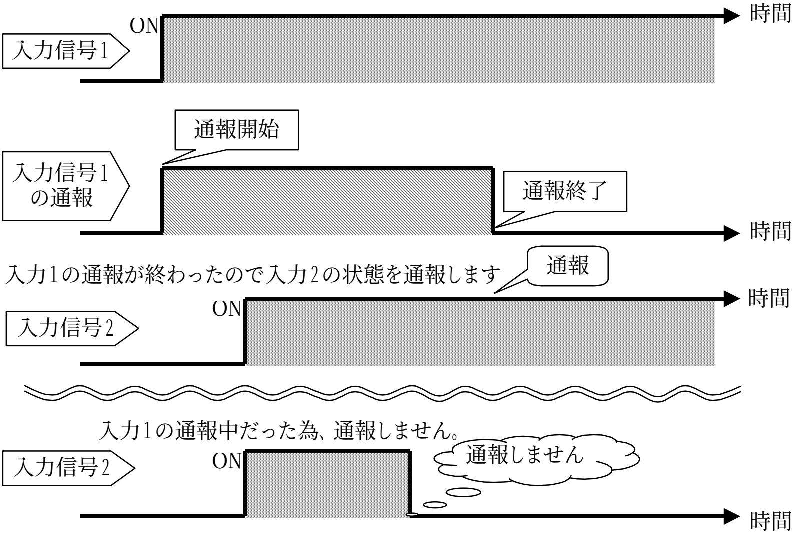


全ての担当者に異常を知らせる必要がある時や、携帯メールの文字化けを考慮した再呼出にご利用ください。通報先がいつも話中や電話が繋がらない場合は、繰り返しダイヤルします。この間に、新たに発生した通報は行いませんのでご注意下さい。

通報を終了するまでに発生したイベント

通報中に新たに発生したイベント(通報を行う条件が整った状態)は、現在の通報が設定通りに終了しない限り通報を開始しません。

例：入力信号１が「有り」になった時の動作例



リダイヤルについて

通報が正常に終了しない場合、LP1 が 10 秒間低速点滅して再度電話をかけます。設定でリダイヤル回数を 0～9 回、または制限無しに設定できます。

注意事項

●WL110D の場合、通報先の電話番号に 0120 など通話料金のかからない通報先を設定すると正常に通報が終了しません。

状態の確認

入力信号の状態を確認するとき

WL110D を接続している携帯電話に電話をかけて、現在の入力信号の状態を確認することができます。

入力信号の状態を音声で聞く

①　「WL110D」に電話をかけます。
②　「WL110D」が電話を取ります。
③　入力信号の状態が音声で繰り返し聞こえます。
例１：入力１、入力２が ON の場合
音声チャンネル 0「*こちらは××です*」
音声チャンネル 1「*入力1が ON です*」
音声チャンネル 2「*入力2が ON です*」
この３つの音声が繰り返し聞こえます。
例２：設定ソフトで停電通報が ON で停電状態の場合
音声チャンネル 0「*こちらは××です*」
音声チャンネル 6「停電が発生しました」
この２つの音声が繰り返し聞こえます。
例３：入力が全て OFF の場合
音声チャンネル０「*こちらは××です*」
音声チャンネル 5「*全ての警報は解除しました*」
この２つの音声が繰り返し聞こえます。
④　音声を確認したら電話をきります。120 秒経過して電話を切らない場合は WL110D が電話を切ります。

音声再生される入力信号の状態は着信を受けた瞬間の状態です。③の状態でメッセージを聞き続け、その間に入力信号が変わってもメッセージは変わりません。

確認できる人を制限する

設定で着信する人を制限できます。
発信者番号通知を調べてあらかじめ登録された電話番号から電話がかかってきた場合のみ、音声を再生する設定が可能です。登録できる電話番号の数は６箇所です。
また、どの番号から電話をかけても、１分間呼出音を鳴らしたら受け付ける設定も可能です。
状態の確認をしない設定の場合や、登録した電話番号以外から電話がかかってきた場合は、WL110D は電話にでません。

注意事項

●「WL110D」が通報中の場合、状態の確認はできません。通報箇所が６箇所全てに行うよう設定されていれば全ての通報が終了するまで待ってください。
●状態の確認中に入力信号が ON になり OFF になったもの、または OFF になり ON になったものは状態の確認終了後に通報はされません。
●「WL110A」で状態の確認はできません。

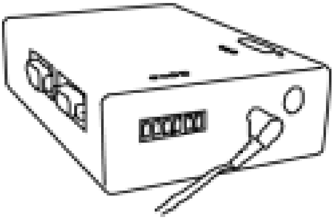
動作設定

本装置は、ご利用の前に受信装置の種類や電話番号、メッセージなどを登録しておく必要があります。
設定は、「設定ソフトウェア(Windows 98(SE)/Me/2000/XP 用)」で行います。
ソフトウェアは、一般回線タイプ「WL110A」及び携帯電話機タイプ「WL110D」共通です。
ご自分で設定ができないときは、パソコンを持っている方にお願いするか、弊社に設定をご依頼ください。また、御購入後の変更依頼も承ります（有料。送料も必要です)。
音声通報や状態の確認を使用される場合は、チャンネル 0〜7 を録音してください。
どちらも使用しない場合は、26ページの「設定に使用するパソコン」からご覧下さい。

録音再生

録音再生の概要

音声録音は 8 つの録音チャンネルが用意されています。各チャンネルを録音し、通報時はこれらを組み合わせて再生されます。
各チャンネルの録音時間は最大 20 秒となります。
本体側面にイヤホンマイクを挿してください。



録音する内容

録音チャンネル 0　　設置した場所や機械装置などの名前が解るような内容を録音します。
例：「*こちらは××です*」、「*◎◎からのお知らせです*」

録音チャンネル 1〜4　　各入力信号１〜4 に対応した通報内容を録音します。
例：「*○○の警報が発生しました*」、「*○○の故障が発生しました*」、「*○○がオンになりました*」、「*○○の窓から侵入者がありました*」

録音チャンネル 5　　全入力が解除したときに通報する内容を録音します。
例：「*全ての警報は解除しました*」、「*全ての故障は解除しました*」、「*全ての信号はオフになりました*」

録音チャンネル 6　　停電が発生した際に通報する内容を録音します。
例：「*停電が発生しました*」、「*外部電源装置が故障しました*」

録音チャンネル 7　　復電したときに通報する内容を録音します。
例：「*復電しました*」、「*外部電源装置が復帰しました*」

注意事項

「WL110D」で録音再生を行うときは、携帯ケーブルを携帯電話機から取り外してください。取り外さない場合は、再生音量が小さくなったりひずんで聞こえたりします。
音声通報を携帯電話で受けた場合、電波の状況によっては音質が悪いことがあります。

録音するときに大きな声で録音したときは再生音がひずむ場合がありますが、通報された電話機で聞くときはひずむことはありません。
音量の調整は出来ませんので実際に通報を受けてご確認ください。

※　録音再生が終了したら、必ず「チャンネル切り替えスイッチ」を０にして下さい。

通報例（通常通報のとき）

入力信号が「有り」になったとき

「こちらは××です。〇〇の警報が発生しました」、「こちらは××です。〇〇の故障が発生しました」、「こちらは××です。〇〇がオンになりました。」、「こちらは××です。〇〇の窓から侵入者がありました」

全入力が「無し」になったとき

「こちらは××です。全ての警報は解除しました」、「こちらは××です。全ての故障は解除しました」、「こちらは××です。全ての信号はオフになりました」

停電が発生したとき

「こちらは××です。停電が発生しました」、「こちらは××です。外部電源装置が故障しました」

復電したとき

「こちらは××です。復電しました」、「こちらは××です。外部電源装置が復帰しました」

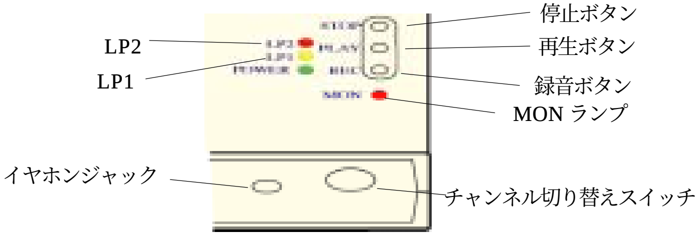
録音再生の操作方法

録音再生は特別な操作はありません。AC アダプタとイヤホンマイクだけを本体に接続して電源をON にすると録音再生が可能な状態です。通報先の設定をしている場合は、電源をONするとすぐ通報の動作になってしまう場合がありますので、その場合は、全ての通報先を「(設定しない)」にしておいてから、録音を行ってください。録音が全て終わったら改めて通報先の設定を行ってください。録音は、付属のイヤホンマイクで行います。設定通信ケーブル、モジュラーケーブル(WL110A)、携帯ケーブル(WL110D)、接点入力は全て外してください。

1. 最初に録音するチャンネルを「チャンネル切り替えスイッチ」で選択します。小さいマイナス、プラスドライバーで回してください。矢印の指している番号が現在のチャンネルになります。
2. 次に録音(REC)ボタンと停止(STOP)ボタンを同時に押します。録音状態になると、MON ランプと LP2 が点灯します。
3. イヤホンマイクに録音する内容をお話しください。MON ランプと LP２が点灯してから 20 秒が経過すると自動的にランプが消えて録音が終了します。
4. 任意の位置までで、録音を停止させたいときは停止(STOP)ボタンを押します。
5. 録音が終わったら再生(PLAY)ボタンを押します。イヤホンから再生されます。途中で録音を停止させた場合はその位置まで再生されます。再生中は MON ランプと LP1 が点灯します。
6. 録音が終わったら電源を OFF にして、イヤホンマイクを抜いてください。

※WL110D の場合、録音時には LP1,LP2,MON が点灯します。

慣れてくれば無音の状態が少なくなるように録音できるようになります。音量調整ボリュームはありませんので、録音する音量で調整してください。各チャンネルの説明を読んで適当な内容を録音再生して確認してください。



設定に使用するパソコン

設定を行う場合、以下の仕様のパソコンが必要です。

・CPU	Pentium150MHz 以上
・OS	日本語 Windows 98SE、Windows Me、Windows 2000(SP1 以降) Windows XP
・ハードディスク	インストールに 7MByte 程度の空きエリアが必要
・メモリ	実装メモリ６４MByte 以上
・モニター	解像度 800×600 ドット以上が表示可能なカラーディスプレイ
・ビデオカード	800×600 ドット以上で、２５６色以上が表示可能なもの
・コミュニケーションポート	COM ポート D-sub 9 ピンが必要（設定内容を転送する時に使用）(ケーブルは本製品に付属しています)

※ 既にインストール済みのソフトウェアやハードウェアの設定、その他の状況により、設定ソフトが正常に動作しない場合もあります。

※ パソコンのコネクタが D-sub 25 ピンの場合は、D-sub 25 ピン → 9 ピンの変換コネクタを別途ご準備下さい。

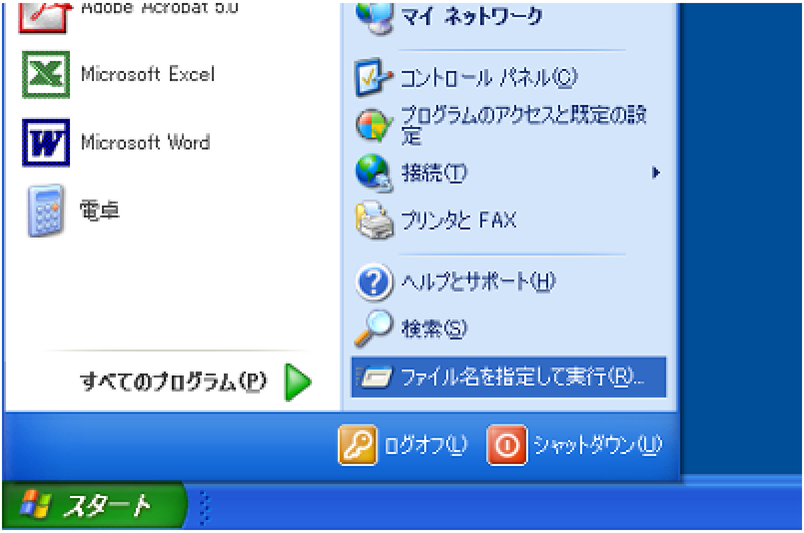
※ パソコンのコネクタに COM ポートがなく USB ポートしかない場合、USB ポート→D-sub9 ピン変換ケーブルを別途ご準備下さい。

※ 付属している通信ケーブルを本装置と接続するときプラグの固定ネジは絞める必要はありません。また、差し込み時は数ミリしかプラグが入りませんので抜けない様にご注意下さい。

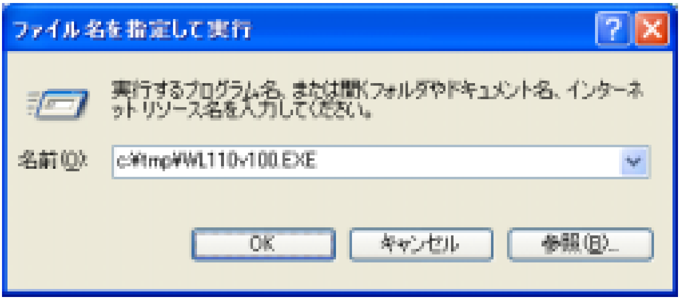
設定ソフトのインストール

ソフトウェアをインストールする前に、実行中のアプリケーションを全て終了して下さい。
セットアップファイルをダウンロードした場合は、ダウンロードしたファイルを実行すると自動的に Setup.exe が実行されますので次ページの説明をご覧ください。

フロッピーディスクやＣＤ－ＲＯＭからインストールする場合は、[スタート]メニューから[ファイル名を指定して実行(R)]を選択します。

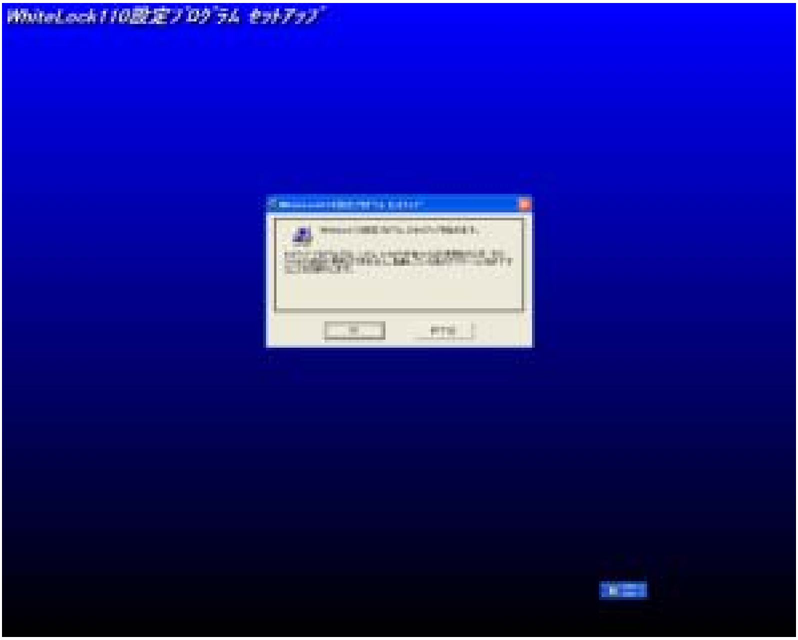


「ファイル名を指定して実行(R)」のウィンドウが表示されたら、名前(O)の右の入力ボックスにフロッピーディスクかＣＤ－ＲＯＭ内の「SETUP.EXE」、ダウンロードしたファイルならば「WL110v???.EXE」を入力して、[OK] ボタンをクリックします。



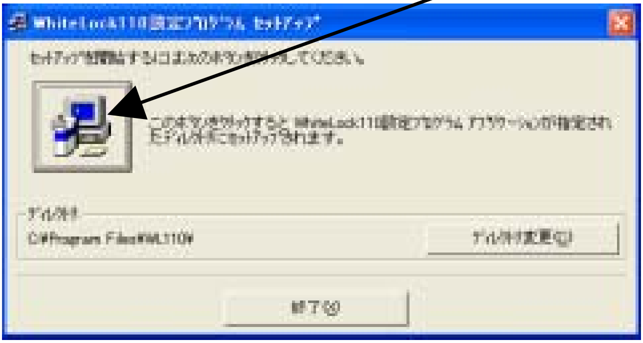
[OK]ボタンをクリックしてからしばらくすると次の画面が表示されます。

以下のダイアログボックスが表示されたら、[OK] ボタンをクリックします。



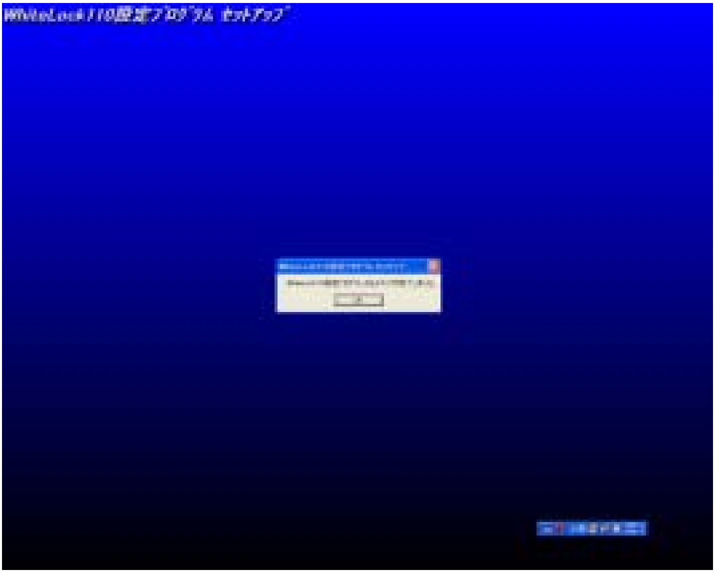
[OK]ボタンをクリックすると下記の画面が表示されます。
インストール先のディレクトリを変更したい場合は、[ディレクトリ変更(C)] ボタンをクリックして変更します。

設定ソフトウェアをインストールするディレクトリを指定して大きなボタンをクリックします。



インストールを中断しない限り、[終了(X)] ボタンをクリックしないで下さい。
このボタンをクリックすると、インストールせずに終了してしまいます。

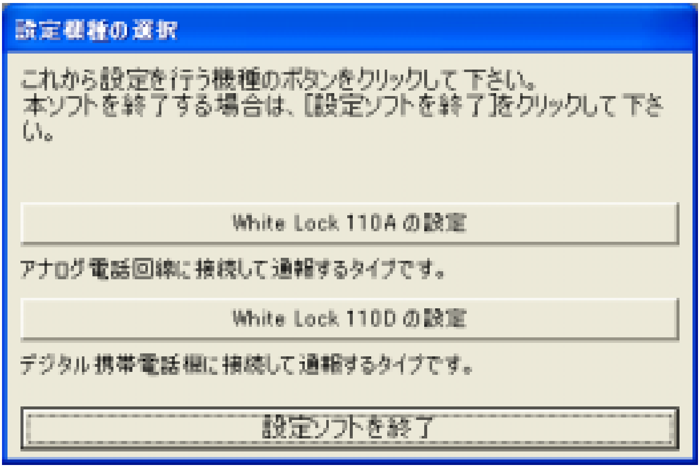
以下の画面が表示されたら、[OK] ボタンをクリックします。



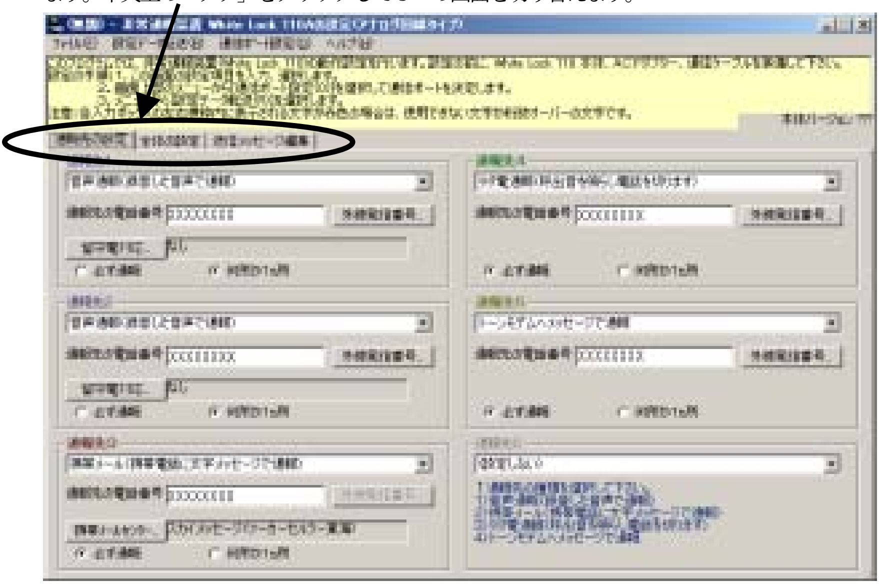
[OK]ボタンをクリックしてセットアップが終了したら、**パソコンを再起動**させて下さい。

設定ソフトウェアの起動

[スタート]メニューから[すべてのプログラム(P)]の[WhiteLock110 設定]を選択して設定ソフトウェアを起動して下さい。
起動すると下記の「設定機種の選択」画面が表示されます。
設定を行う製品のボタンをクリックします。また、誤って設定ソフトウェアを起動した場合は、[設定ソフトを終了]ボタンをクリックして終了して下さい。



「WL110」の設定画面は、「通報先の設定」、「全体の設定」、「送信メッセージ編集」の３つがあります。中央上の「タブ」をクリックして３つの画面を切り替えます。



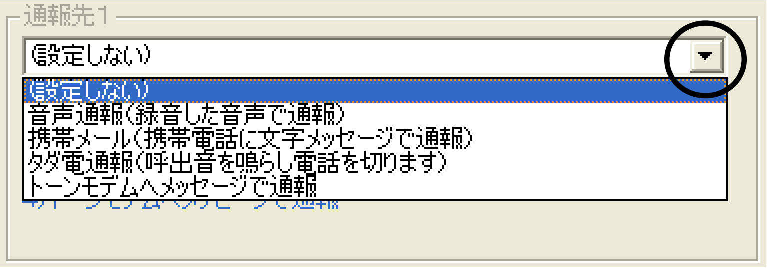
画面の各設定項目上にマウスポインタを移動させると、項目毎の説明が表示されます。
[通報先の電話番号]、[携帯メールセンター]など設定項目が赤い文字で表示されている場合は、必須の入力項目のときか入力に誤りがある場合です。
「WL110」への転送は何回でも行えますので、最初は練習のつもりで色々と変えて転送してみてください。
「WL110A」の設定画面には、「WL110D」には無い[外線発信番号]の設定があります。その他は「WL110D」と同じです。
[通報先の設定]タブで通報先に「携帯メール」、「トーンモデム」が選択されていなければ[送信メッセージ編集]タブを選択できません。

通報先の設定

通報先をここで指定します。最大６箇所まで指定できます。通報先毎に「音声通報」、「携帯メール通報」、「タダ電通報」、「トーンモデム」を選択できます。

通報先の種別

録音した音声で通報する場合は、「音声通報…」を選択します。携帯へメッセージで通報するときは「携帯メール…」を選択します。呼出音を鳴らしてすぐ電話を切る場合は、「タダ電通報…」を選択します。トーンモデムへ通報する場合は「トーンモデム…」を選択します。設定しない場合は「(設定しない)」を選択します。
下図の下矢印（▼）をクリックすると一覧が表示されます。

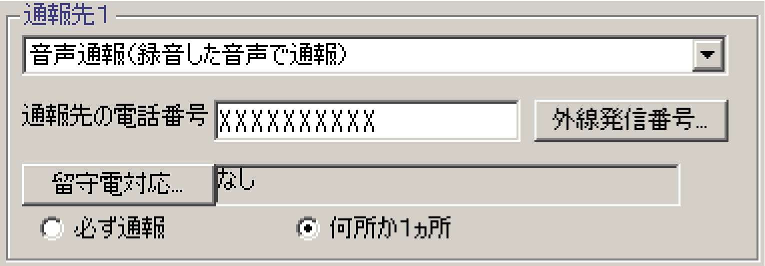


通報する順番は通報先１、通報先２、…通報先６となります。全ての通報先を「(設定しない)」にすると、どこにも通報しません。状態の確認のみ使用したい場合は全て「(設定しない)」にしておきます。
初期状態は全て「(設定しない)」になっています。

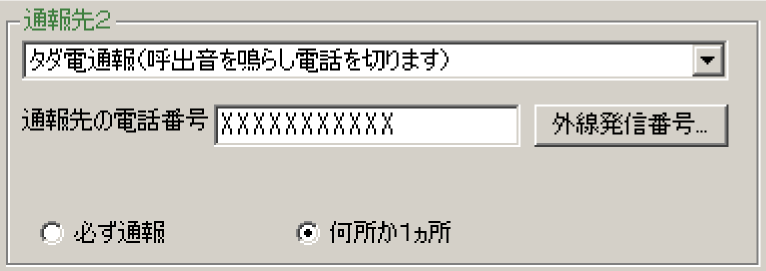
通報先の電話番号

通報したい一般回線電話機、携帯電話、PHS の電話番号を入力します。24 桁まで入力できます。
電話番号に、市外局番が必要な時は必ず入力してください。「WL110D」では必要です。
入力の際に、ハイフン（－）は入れないで番号部分のみ入力します。
また、PBX 交換機の内線へ通報するときは、内線番号を入力します。(WL110A)
ダイヤル回線の場合は、'＃' や '＊' は使用できません。(WL110A)
発信者番号を通知する場合は、電話番号の先頭に「186」を入力します。通報先が携帯メールの場合「186」は入力しないで下さい。

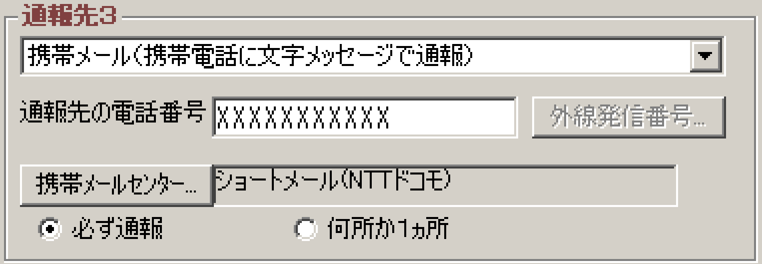
下図は音声通報の場合です。XX-XXXX-XXXX へ音声通報します。



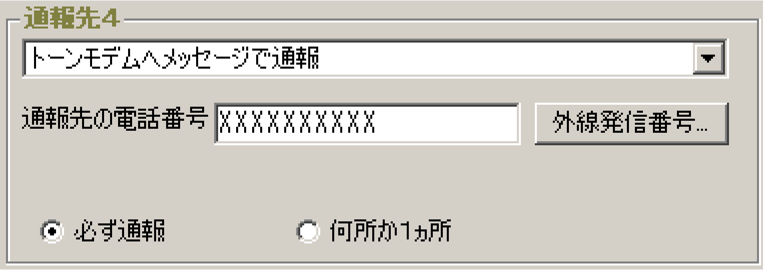
下図はタダ電通報の場合です。XXX-XXXX-XXXX へ発信者番号通知でタダ電通報します。



下図は携帯メールの場合です。XXX-XXXX-XXXX へショートメールで送信します。



下図はトーンモデムの場合です。XX-XXXX-XXXX へ文字メッセージで送信します。



外線発信番号(WL110A のみ)

下図は「WL110A」で０発信して XXXX-XXXX へ音声通報します。

「PBX 交換機に接続して外線へ通報するときは、電話番号の先頭に外線発信する番号（ゼロ発信なら 0）を入力してコンマ(,)を２つ入力します。コンマ１つは「0.5 秒待つ」という指定です。[外線発信番号…]ボタンをクリックすると簡単に入力できます。

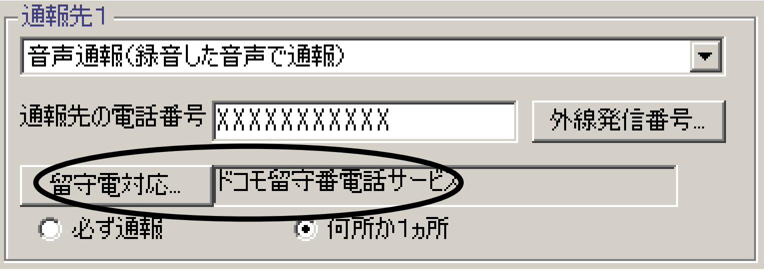
０をクリックすると「**0,,**」が入力され、「なし」をクリックすると「**0,,**」や「**9,,**」があった場合削除されます。「キャンセル」をクリックすると何も変更しません。

外線発信番号をダイヤルした後の待ち時間が足りない場合はコンマをいくつか入力してください。0.5 秒づつ待ち時間が長くなります。「**0,,,,XXXXXXXX**」とすると２秒の待ち時間になります。

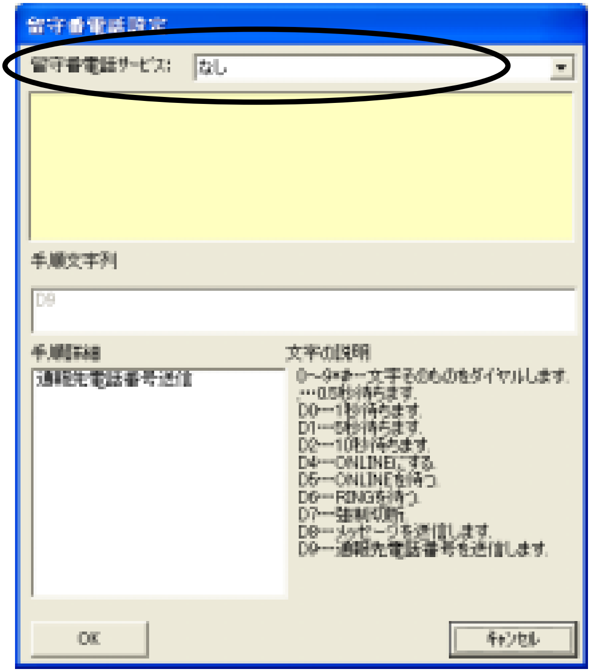
「WL110D」では外線発信番号の設定は必要ありません。通報先が携帯メールの場合は、携帯メールセンターの設定で外線発信番号を指定します。

留守番電話対応

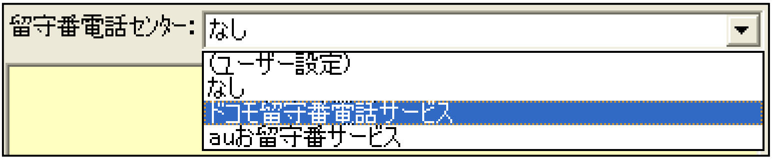
音声通報で通報先が留守番電話だった場合の対応を設定します。



通報先が留守番電話だった場合、留守番電話のシステムによって正常通報になったり、リダイヤルを繰り返したりします。通報先にあわせて、留守番電話で受けても正常通報になるよう、設定を行えます。設定により、人が通報を受けた場合も、音声メッセージと一緒に DTMF 音（ピポパの音）が聞こえます。なお、通報先が人か留守番電話かは、本装置では判断できません。どちらであっても正常に通報が終了するよう設定します。下図が留守番電話設定ダイアログです。



対応する「留守番電話サービス」を選択してください。
下図の下矢印（▼）をクリックすると一覧が表示されます。



注意点

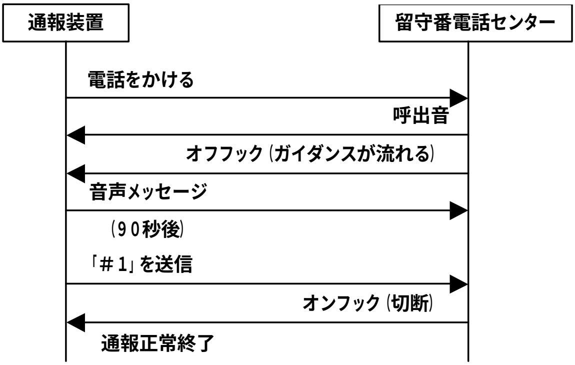
※　留守番電話でも正常に通報できるか十分テストを行ってください。
※　留守番電話センターのシステムが変更されれば本機能は正しく動作しない場合があります。
※　この設定の通報先で、人が電話に出た場合、音声メッセージと一緒に 90 秒後に「#」などのプッシュ音が聞こえます。

WL110A の場合

呼出音が 10 秒～20 秒鳴ってから自動応答が始まり、120 秒以内に自動的に電話が切れる留守番電話ならば、この設定は必要ありません。「なし」に設定しておきます。

ドコモ留守番電話サービスの場合

「ドコモ留守番電話サービス」を選択してください。留守番電話サービスの自動応答が始まってから 90 秒後に「#1」を送信してメッセージを保存します。留守番電話サービスの設定で、呼出時間の設定(電話:1419)を 10～20 にします。また、応答メッセージから録音までの時間が 60 秒で収まるようにしてください。留守番電話サービスの応答メッセージが長すぎると通報内容の録音ができません。



ａｕお留守番サービスの場合

「ａｕお留守番サービス」を選択してください。お留守番サービスの自動応答が始まってから 90 秒後に「#」、さらに 10 秒後に「#」を送信してメッセージを保存します。

注意点

※　WL110A で呼出音が鳴らない留守番電の場合、正常通報にできません。通報先の携帯電話が圏外、電源 OFF の場合です。

WL110D の場合

呼出音が鳴る必要はありません。通報先へ電話をかけてから自動応答が始まりメッセージの録音をして自動的に電話が切れるまで 120 秒以内であれば、この設定は必要ありません。「なし」に設定しておきます。

ドコモ留守番電話サービスの場合

「ドコモ留守番電話サービス」を選択してください。通報装置が電話をかけてから 90 秒後に「#1」を送信してメッセージを保存します。留守番電話サービスの応答メッセージが長すぎると通報内容の録音ができません。

ａｕお留守番サービスの場合

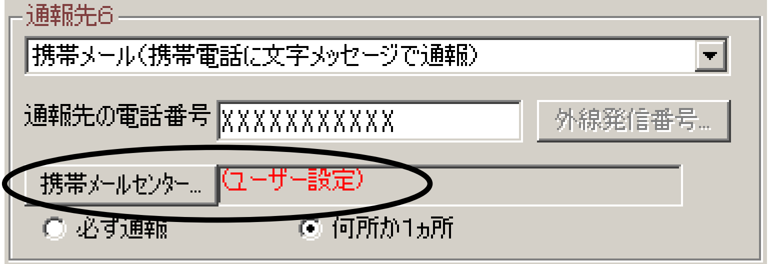
通報先がａｕのお留守番サービスであれば「ａｕお留守番サービス」を選択してください。お留守番サービスの自動応答が始まってから 90 秒後に「#」、さらに 10 秒後に「#」を送信してメッセージを保存します。

注意点

※　WL110D で留守番電話サービス側から電話を切らなければ通報終了になりません。

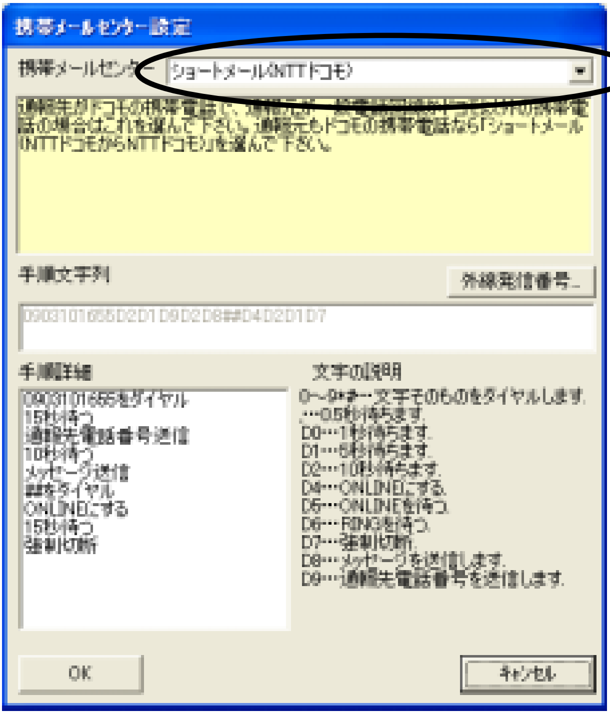
携帯メールセンター

携帯メールで通報する場合は通報先の携帯電話に対応するメールセンターを選択する必要があります。
下図の XXX-XXXX-XXXX へ携帯メールで通報する設定で、「（ユーザー設定)」の文字が赤で表示されていればメールセンターが未選択の状態です。



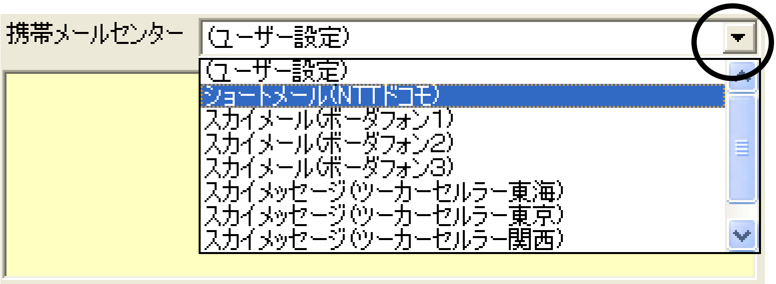
ここで、[携帯メールセンター…]ボタンを押します。携帯メールセンター設定ダイアログが表示されます。

下図は携帯メールセンター設定ダイアログです。



通報先電話番号に携帯電話の電話番号が入力されていれば対応したメールセンターが選択されます。「（ユーザー設定）」になっていたら、対応するメールセンターを選択してください。

下図の下矢印（▼）をクリックすると一覧が表示されます。

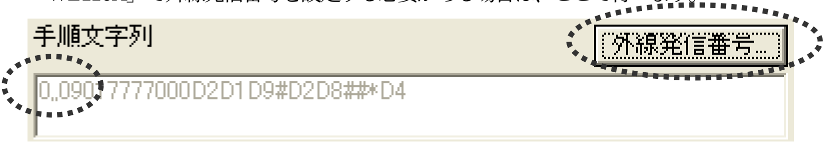


・ショートメール(NTT ドコモ)
通報先がドコモの携帯電話で、通報元が一般電話回線(WL110A)か、ドコモ以外の携帯電話(WL110D)の場合はこれを選んで下さい。通報元もドコモの携帯電話なら「ショートメール(NTT ドコモから NTT ドコモ)」を選んで下さい。

・ショートメール(NTT ドコモから NTT ドコモ)
通報先がドコモの携帯電話で、通報元もドコモの携帯電話の場合はこれを選んで下さい。通報元が一般電話回線かドコモ以外の携帯電話の場合は「ショートメール(NTT ドコモ)」を選んで下さい。

・スカイメール(ボーダフォン＊)
通報先がボーダフォンの携帯電話の場合はこれを選んで下さい。＊には1，2，3がありますが、どれを選んでもかまいません。

「WL110A」で外線発信番号を設定する必要がある場合は、ここで行います。



0発信させる場合は、「外線発信番号」をクリックして「0」をクリックします。すると、手順文字列の先頭に「**0,,**」が挿入されます。(WL110A)

メールセンターが設定できたら、[OK]ボタンをクリックしてください。

携帯メールセンターの編集

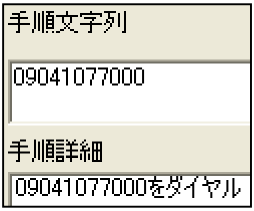
該当する携帯メールセンターが一覧に無い場合、既存のメールセンターの電話番号が変わった場合、メールセンターの送信手順が変わった場合など、送信手順を編集する必要があります。

携帯メールを送信する手順は以下のようになります。

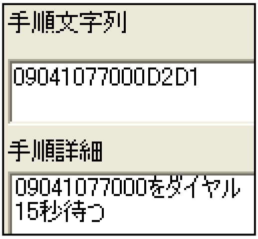
① メールセンターに電話をかける。
② ガイダンスが流れる。
③ 送信先の電話番号をダイヤルする。
④ ガイダンスが流れる。
⑤ メッセージをダイヤルする。
⑥ ガイダンスが流れる。
⑦ 電話が切れるのを待つ。

これを手順文字列に入力します。
まず、携帯メールセンターで「(ユーザー設定)」を選択しておきます。

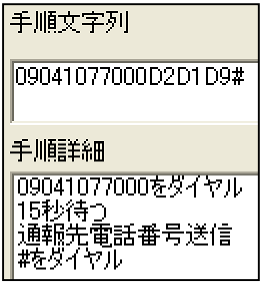
送信手順は「手順文字列」のところに英数字を入力して指示します。「手順詳細」には入力した手順がわかりやすく表示されます。



① メールセンターの電話番号を入力します。例としてスカイメールのメールセンター「090-4107-7000」を入力します。
手順文字列に「**09041077000**」と入力すると同時にその下の[手順詳細]に「09041077000 をダイヤル」と表示されます。手順文字列に数値を書くとその数字をダイヤルすることになります。

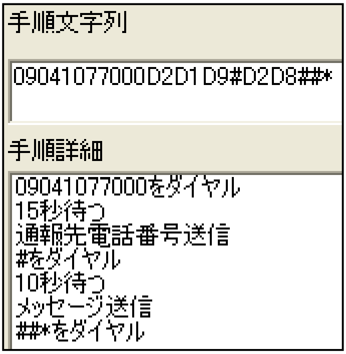


② 「*宛先の電話番号入力し最後に#を押してください*」のガイダンスが流れるのを待ちます。15 秒待つには「**D2D1**」を入力してください。
時間を待つ命令には「**D0**」…１秒待つ、「**D1**」…５秒待つ、「**D2**」…10 秒待つがあります。手順文字列に「**D2D1**」を書くと同時に「手順詳細」に「15 秒待つ」と表示されます。



③ 通報先の電話番号送信するには「**D9**」を入力します。「**D9**」は「通報先の設定」タブで指定した「通報先の電話番号」を送信しろという命令です。
「**D9**」を入力するのと同時に「手順詳細」に「通報先電話番号送信」と表示されます。

④ ガイダンスの通りに通報先の電話番号を送信したら最後に「＃」を送信します。「**D9**」の後に「＃」を入力します。
「＃」を入力すると同時に「手順詳細」に「＃をダイヤル」と表示されます。



⑤ 「*メッセージを入力し最後に#を２回押してください*」のガイダンスが流れるのを待ちます。10 秒待つには「**D2**」を入力します。

⑥ メッセージをダイヤルします。「送信メッセージの編集」タブで作成したメッセージを送信するには「**D8**」を入力します。

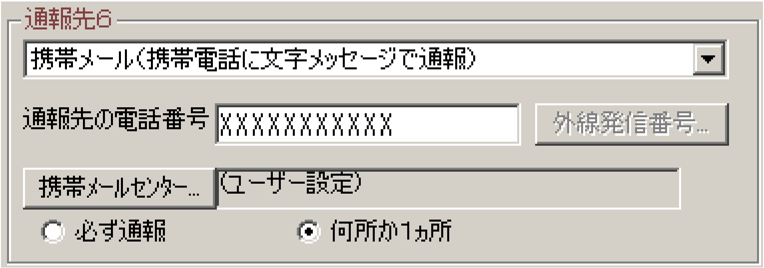
⑦ ガイダンスの通りにメッセージを送信したら最後に「＃」を２回送信します。「手順文字列」に「＃＃」を入力します。スカイメールの場合は最後に「＊」も入力します。

⑧ あとはメールセンターから電話が切れるのを待ちます。何も入力する必要はありません。

手順文字列を作成して[OK]を押すと設定は完了です。

「WL110D」の場合は以上の設定で終了です。「WL110A」の場合は最後に「D4」を入力してください。

修正されたメールセンターは「(ユーザー設定)」となります。



注意点

携帯メール通報の場合、通報先の携帯電話が圏外の場合は通報が遅れることがあります。詳細はQ&Aをご覧下さい。(77ページ参照)

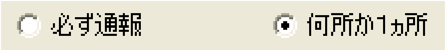
WhiteLock 集中監視専用モデムへ通報する場合

通報先の種類で「トーンモデム」を選択してください。

通報終了条件

それぞれの通報先は「必ず通報」か「何所か１ヵ所」を選択できます。

「必ず通報」を選択した場合は、他の通報先にかかわらず、通報が成功するまで通報を試みます。



「何所か１ヵ所」を選択した場合は、他の「何所か１ヵ所」を選択した通報先の何所か１箇所にでも通報が成功すれば、通報しません。

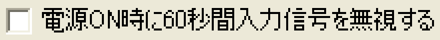
詳しくは20ページの「複数の通報先を終了する条件」を参照してください。

全体の設定

全体の設定は２つ目のタブをクリックすると表示される下図の画面で行います。

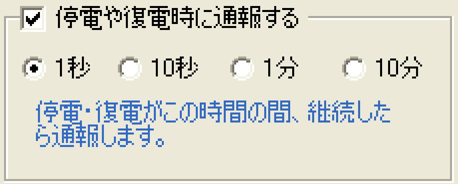
電源 ON 時に 60 秒間、入力信号を無視する

□内にチェックを付けると、電源スイッチを入れたときに 60 秒間 LP1 が低速点滅します。この間、入力信号が ON/OFF して通報しません。着信もしません。音声録音再生もできません。「検知センサーCM－０２」を使用される場合はチェックを入れてください。



停電や復電時に通報する

□内をクリックする毎にチェックが付いたり消えたりします。チェックを付けると停電や復電時に通報するようになります。詳細説明は19ページの「停電時発信」をお読みください。

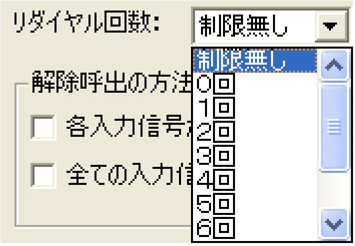


停電、復電と判定するまでの時間を 1 秒、10 秒、1 分、10 分から選択できます。

定期通報する

□内にチェックを付けると、指定時間毎に通報を行うことができます。右側の時間は上下ボタンで変更できます。1～255 時間の値が設定できます。

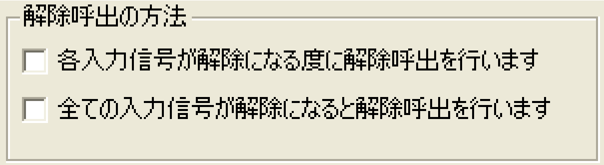
リダイヤル回数



通報が正常に終了しなかった場合に、再度電話をかける回数を設定します。0～9 回、または制限無しに設定できます。

解除呼出の方法

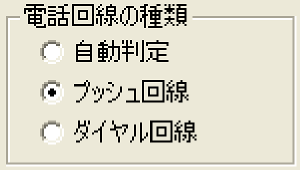
入力信号が解除されたとき（機器の故障やセンサーの信号が「なし」の状態になったとき）に通報する方法を、ここで選択します。呼出方法についての詳細説明は16ページの「呼出の種類と通話料金」をお読みください。



※「各入力信号が解除になる度に解除呼出を行います」は通報先の種類が「携帯メール」か「トーンモデム」の場合のみ通報します。

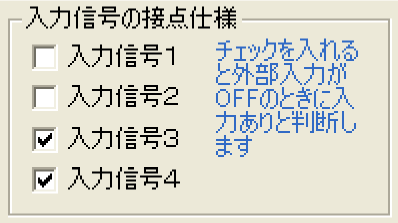
電話回線の種類(WL110A)

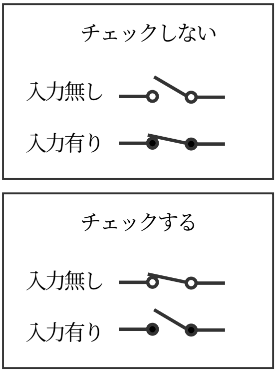
WL110A の場合に、接続する回線の種類を設定します。「自動判定」にすると、本体の電源を入れたときに回線の種類を自動で判定します。PBX によっては自動判定できない回線もありますので、その場合は回線にあった設定を選んでください。



入力信号の接点仕様

各入力のａ接点、ｂ接点を変更します。□内チェックでｂ接点仕様です。



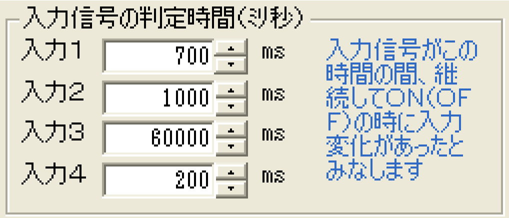


制御装置やセンサーの出力信号は「通報有り」としたいとき、接点が短絡するものや、解放になるものがあります。通常は「通報有り」のとき短絡信号を出力する場合が多いのですが、制御装置などでは様々です。
ここでは「通報有り」のときに短絡する信号の場合は□内のチェックをはずし、逆に解放となる場合は□内にチェックを付けます。つまり、チェックを付けたものは短絡された状態が通報しないときとなります。設定後にテストされるときはご注意ください。
ソフトを起動したときはチェック付いていません。
また、本体の外部信号入力モニタランプは、外部信号が短絡したとき、点灯します。ここでの設定には無関係です。

入力信号の判定時間（ミリ秒）

各入力信号がこの時間の間、継続して ON（OFF）の時に入力変化があったとみなします。100 ミリ秒単位で 0 ミリ秒～1310700 ミリ秒（約 21 分）まで設定できます。

初期値は 700 ミリ秒です。

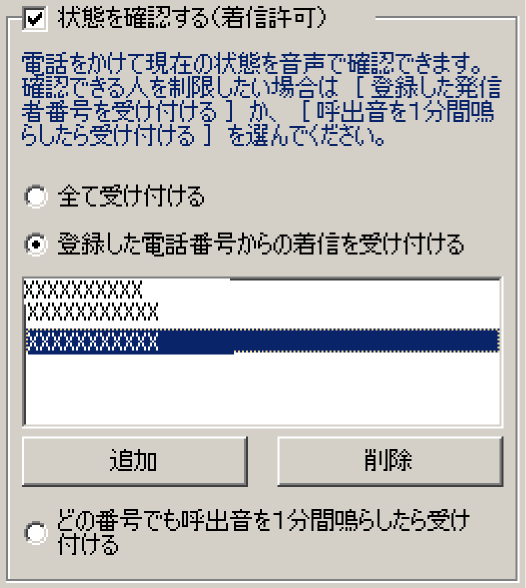


状態を確認する(着信許可)(WL110D)

状態の確認を使用するにはここにチェックを付けます。確認できる人の制限を 3 つから選んでください。

〇「全て受け付ける」
全ての着信を受け付けます。

〇「登録した電話番号からの着信を受け付ける」
特定の電話番号からの着信のみ受け付ける場合これを選択してください。「追加」ボタンをクリックして着信を許可する電話番号を登録してください。必ず市外局番を含む電話番号で登録してください。最大 6 箇所の電話番号が登録できます。
電話番号を削除したい場合は、電話番号を選択して「削除」ボタンをクリックしてください。



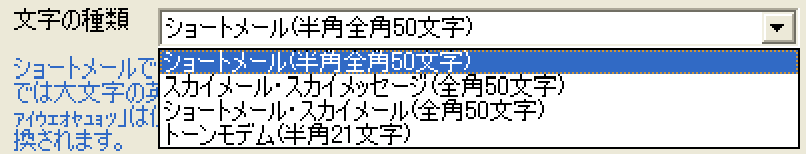
〇「どの番号でも呼出音を 1 分間鳴らしたら受け付ける」
これを選択すると、どの番号から本装置に電話がかかってきても、1 分待ってから受話器を上げ音声を再生します。
23ページの「状態の確認」を参照してください。

送信メッセージの編集

送信メッセージの編集は３つ目のタブをクリックすると表示される下図の画面で行います。

文字の種類

携帯メールセンターにより使用できる文字の種類と文字数が違いますので、通報する携帯電話で受信できる携帯メールにあわせて文字の種類を選択してください。



携帯メールの通報先にショートメールとスカイメールがある場合は、どちらのメールでも使用できる文字でメッセージを作成しなければならないので「ショートメール・スカイメール(全角 50 文字)」を選んでください。
通報先にトーンモデムが含まれる場合は必ず「トーンモデム(半角 21 文字)」を選んでください。

携帯メールで送信できる文字の種類には「数字モード」、「フリーメッセージ」、「拡張フリーメッセージ」、「定型分」、「区点コード」の５種類あります。「WL110N」はこのうち、「フリーメッセージ」「拡張フリーメッセージ」「区点コード」で文字を送ることができます。「文字コード」84ページを参照してください。

・ショートメール(半角全角 50 文字)
　ショートメールで送信できる最大文字数は、半角全角にかかわらず 50 文字です。「フリーメッセージ」と「区点コード」が使用できます。

・スカイメール・スカイメッセージ(全角 50 文字)
スカイメールで送信できる文字数は全角 50 文字です。半角文字は使用できません。「区点コード」が使用できます。

・ショートメール・スカイメール(全角 50 文字)
ショートメールとスカイメール共通で送信できる文字数は全角 50 文字です。半角文字は使用できません。「区点コード」が使用できます。

・トーンモデム（半角 21 文字）
通報先にトーンモデムがある場合これを選んでください。送信できる文字数は半角で 21 文字です。全角文字は使えません。大文字の英字、カタカナ、数字、一部の記号が使えます。使用できない文字を入力すると使用できる文字に変換されます。識別コードは使用できません。

識別コード

識別コードは、複数の通報装置から通報を受信したとき、相手を特定するために使用する文字です。

送信されるメッセージは“ 識別コード ”＋“) ”＋“ 入力信号のメッセージ”となります。(識別コードの後ろに半角文字のカッコが付きます。スカイメール・スカイメッセージの場合は全角文字のカッコが付きます。)
必要なければ識別コードを設定する必要はありません。そのときは“) ”も付きません。“ 入力信号のメッセージ ”だけが送信されます。
トーンモデムの場合、識別コードは使用できません。

入力信号１～４のON／OFF

各入力に該当する信号が「有り」、「無し」になったとき、ここで設定するメッセージが携帯メール、トーンモデムへ送信されます。

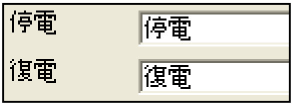
「全体の設定」タブの「解除呼出の方法」で「各入力信号が解除する度に解除呼出を行います」にチェックを付けていた場合、信号が「有り」になったとき“ ON ”が、信号が「無し」になったとき“ OFF ”のメッセージが送信されます。

全解除

「全体の設定」タブの「解除呼出の方法」で「全ての入力信号が解除になると解除呼出を行います」にチェックを付けていた場合に送信されるメッセージです。

停電・復電

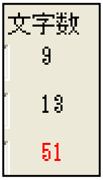
「全体の設定」タブで「停電や復電時に通報する」にチェックを付けていた場合に送信されるメッセージです。



定期通報

「全体の設定」タブで「定期通報する」にチェックを付けていた場合に送信されるメッセージです。

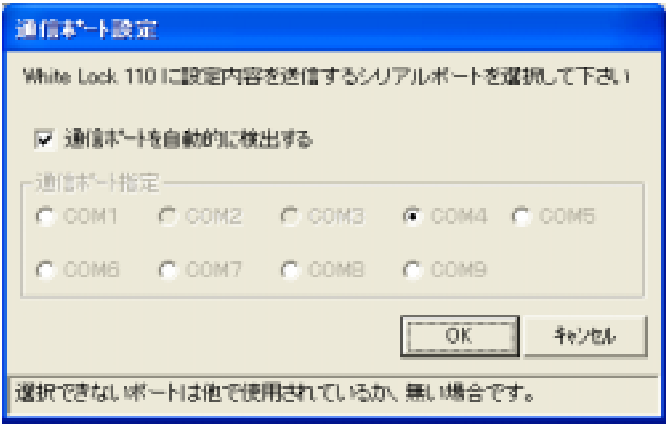
文字数



メッセージを入力すると現在の文字数が表示されます。「文字の種類」で「ショートメール」を選択してれば、全角１文字、半角１文字として数えた数が表示されます。それ以外の「文字の種類」の場合は、全角２文字、半角１文字として数えた数が表示されます。
「識別コード」が設定されていればその分の文字数も数えられます。
数字が赤く表示された場合は文字数がオーバーしている状態です。

通信ポートの確認

設定内容を転送する時に使用する通信ポートを選択します。
メニューから［通信ポート設定(O)］をクリックして、下記ウィンドウを開きます。



通信ポートを自動的に検出する

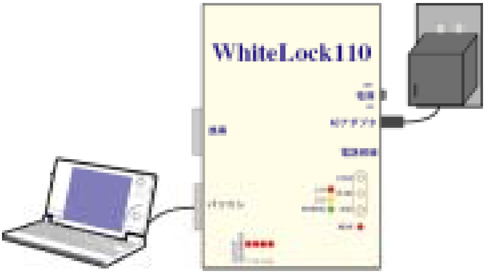
「WL110」に接続されている通信ポートを探して転送を行います。通常はここにチェックを付けておいてください。

通信ポート指定

「通信ポートを自動的に検出する」で転送が失敗する場合、チェックを外して「WL110」が接続されている通信ポートを選択してください。使用出来ない通信ポートがあれば薄色で表示されて選択できない状態になります。転送に使用する通信ポートをマウスで選択したら、[OK]ボタンをクリックします。

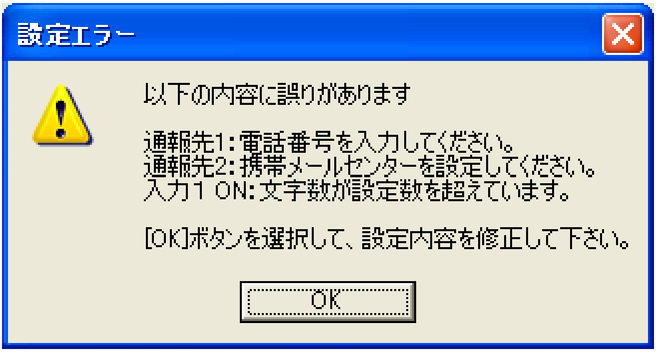
本体とパソコンの接続

本体とパソコンを付属の「通信ケーブル」で接続します。本体側は「初期設定設定コネクタ」、パソコン側は「|O|O|」のマークがあるコネクタに接続します。



設定内容の転送

設定画面で入力が完了したら、メニューから「設定データ転送(R)」を選択して下さい。設定画面で、入力エラーがあったときは下図のようなメッセージが表示され、設定画面上の誤りが見つかった部分にカーソルが移動します。



[OK] ボタンをクリックして、誤りが見つかった所を修正してから再度「設定データ転送(R)」を選択して下さい。

「設定内容の転送」画面では、製品本体に設定画面で入力された設定内容の転送作業を行います。
画面に表示される説明に従ってスイッチの操作や通信ケーブルの接続を行います。

「次へ」のボタンをクリックします。
画面の指示に従って操作すると自動的にデータの転送が開始されます。

しばらくして、転送が終わると下図のようになります。

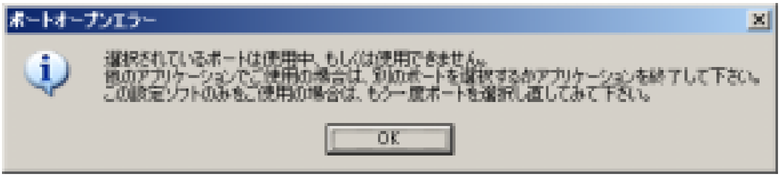
転送が終了し、通信ケーブルのコネクタを抜くと「次へ」のボタンが使えるようにになります。
「次へ」ボタンをクリックすると最後に確認画面が表示されます。

「閉じる」をクリックすると転送作業が終了し、元の画面に戻ります。

一回設定内容を転送するか、本体から設定内容を読み込むと本体のバージョン番号が表示されます。

ポートが使用中だった場合

選択されたポートが他のアプリケーションで使用中だった場合、以下のダイアログが表示されます。



他のアプリケーションを終了などして、ポートを使用可能にしてから転送してください。

本体から設定内容を読み込む

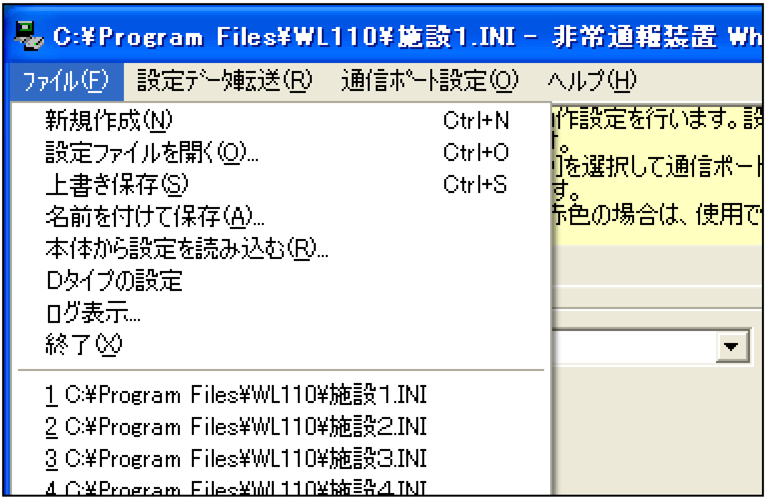
本体に現在保存されている設定を読み込みます。本体が、どのような設定になっているか確認することができます。「ファイル(F)」メニューの「本体から設定を読み込む(R)…」を選択してください。転送を開始する画面が表示されます。

後は、画面の指示に従って操作をして下さい。手順は「設定内容の転送」と同じです。転送終了後、本体から読み込んだ設定が画面に表示されます。

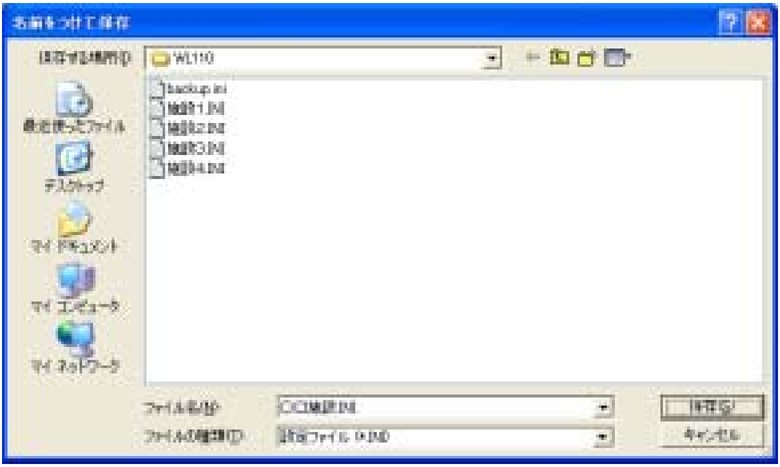
※「送信メッセージ編集」タブの「文字の種類」の設定は本体に保存されていないため、読み込むことはできません。読み込んだ後で適当な値に設定してください。

設定内容の保存と読み込み

設定内容をファイルに保存したり、ファイルから読み込んだりするにはメニューの「ファイル(F)」から行います。



設定された内容をファイルに保存する時は、[ファイル(F)] メニューの [名前をつけて保存(A)] を選択します。保存先のフォルダ、ファイル名を指定して[保存(S)] ボタンをクリックします。保存する設定ファイルは、INI の拡張子を持つファイルとなります。



新規作成

全ての設定項目を初期状態にします。通報先は全て「(設定しない)」で送信メッセージも全て未設定にします。現在の設定が保存してなければ保存するか問い合わせます。

設定ファイルを開く

保存した設定ファイルを開く場合は、[ファイル(F)] メニューの [設定ファイルを開く(O)] を選択し、開きたい設定ファイルを選択して[開く(O)]ボタンをクリックします。
現在の設定が保存してなければ保存するか問い合わせます。

上書き保存

既に開かれているファイルに上書き保存する場合は、[ファイル(F)] メニューの [上書き保存(S)]を選択します。

名前を付けて保存

設定された内容をファイルに保存する時は、[ファイル(F)] メニューの [名前をつけて保存(A)] を選択します。

本体から設定を読み込む

50ページを参照してください。

A タイプの設定・D タイプの設定

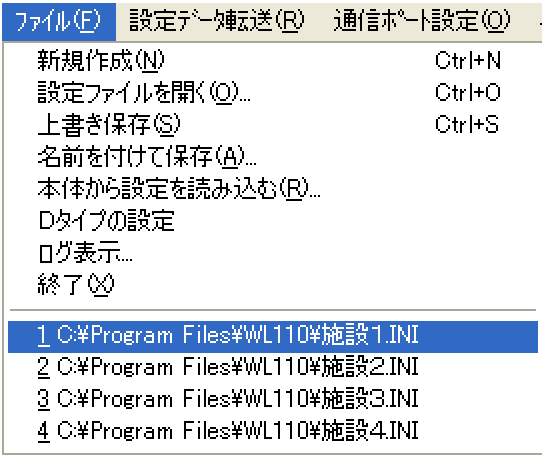
A タイプの設定中のなら D タイプの設定画面に、D タイプの設定中なら A タイプの設定画面にする。現在の設定が保存してなければ保存するか問い合わせます。

終了

設定ソフトを終了します。

以前に編集したファイル

過去に開いたファイルの履歴を 10 個まで表示します。表示されているファイルを選択すると、そのファイルを開きます。現在の設定が保存してなければ保存するか問い合わせます。

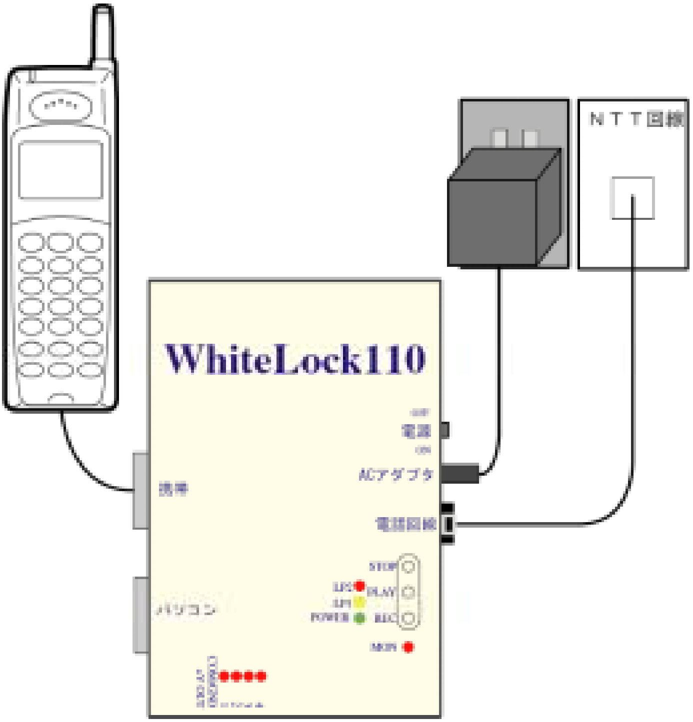


動作確認

本体の設定が終了したら、設定したように動作するか必ず確認して下さい。

1. 「電源スイッチ」を OFF にします。
2. AC アダプターを電源コンセントに差し込み、AC アダプターから出ている電源プラグを本体の「電源」に接続します。接続方法は「ＡＣアダプタの接続」56ページの説明をご覧ください。
3. 製品が「WL110A」の場合は、付属のモジュラーケーブルで電話回線と本体の「回線」を接続します。接続はカチッと音がして完全に差し込まれていることを確認してください。
4. 製品が「WL110D」の場合は、付属の携帯ケーブルで本体と携帯電話機を接続します。接続方法は「携帯電話機の接続」62ページの説明をご覧ください。
5. 「チャンネル切替スイッチ」が０になっていることを確認します。
6. 「電源スイッチ」を ON にします。
7. 各入力信号の端子と、共通端子をリード線等で結線させ通報させます。（55ページの図２　参照）音声通報なら通報先に電話がかかって音声が流れるか確認します。携帯メールなら通報先の携帯電話にメールを届いたか確認します。タダ電通報なら通報先で呼出音が鳴って切れるか確認してください。

WL110A なら電話回線、WL110D なら携帯電話を接続して動作確認を行ってください。



設置方法

設置場所を決める

本体を設置する前に、本書の仕様を確認の上、設置場所を決めて下さい。
壁や天井などに取り付ける場合は、自動車用両面テープを使用して下さい。
また、本体と接続されるケーブルが余裕をもって設置出来るような空間を確保して下さい。

接続工事

本体側の電話回線

１．一般回線用「WL110A」

NTT 仕様の 2 線式のプッシュ回線及びダイヤル回線。ISDN 回線をご利用の場合は、ターミナルアダプタ(TA)のアナログポートに接続します。
他の電話機やFAXの回線と併用（分岐）してお使いになる場合は、市販の分岐アダプタを購入してご利用ください。（本体にはモジュラー端子が１つしかついていません）

２．携帯電話機用「WL110D」

NTT DoCoMo などのデジタル携帯電話機１台を接続します。PHS、cdmaOne は利用できません。

入力端子接続

接続に関するご注意

COM（共通端子）は端子の端から２番目になっていますお間違えのないように。
接続できる信号は無電圧のものに限ります。商用（AC）100Ｖや直流電圧がかからないようにしてください。

接続

各信号は COM（共通端子）と 1～4 の間に接続します。
信号は無電圧ａ接点または無電圧ｂ接点の電圧のかかっていないものを接続します。
設定ソフトで各入力のａ接点、ｂ接点を変更することもできます。
１つの入力に複数の入力を並列に接続して一括故障などとすることもできます。
入力は、700 ミリ秒以上(初期値)の間継続して ON(OFF)の時に、入力変化があったとみなします。

端子台

端子台はケーブルを端子台ソケットに差してマイナスドライバーでネジ止めします。そして、本体にソケットを差し込んでください。
端子台コネクタの仕様は端子ピッチ：3.81mm、接続電線範囲 0.14～1.0mm²、AWG26～AWG16 です。

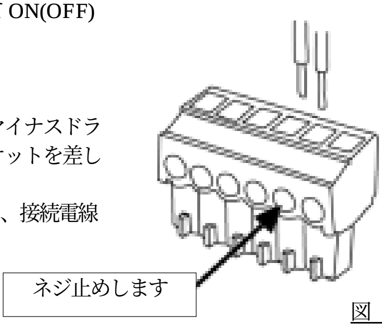


図 1

それぞれの接点は図のようになっています。

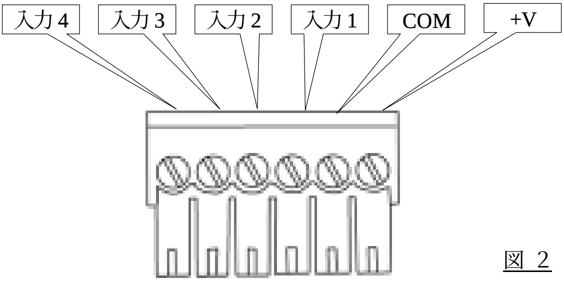


図 2

センサー用電源+V 端子

外部センサーなどの電源に利用するためのセンサー用電源（入力端子の+V）が出力されます。出荷時には電圧が出ておりません。ケースの蓋を開けると、「JP1」のジャンパーがあります。（上部中央）このジャンパーで「出力無し」、「DC5V」、「AC アダプタの出力をそのまま」の切り替えができます。

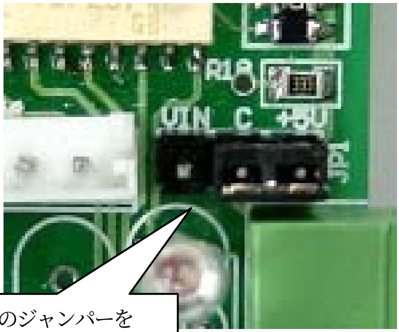
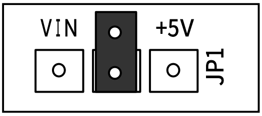


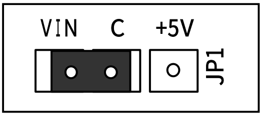
図 3

・ ショートしない(出荷状態)
出力無しの状態。



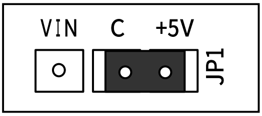
・ VIN をショート

AC アダプタの出力をそのままの+V 端子へ出力します。停電時は AC アダプタからの出力がなくなりますから+V 端子への出力もなくなります。

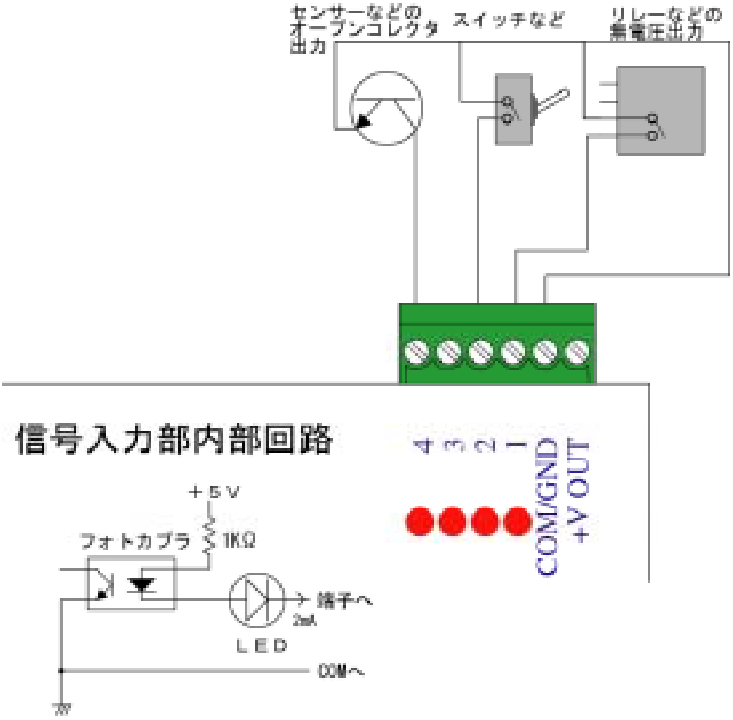


・ +5V をショート

5V を出力します。停電時は停電保証電池から+V 端子に繋がれている機器に電源を供給しますので、停電保証時間が短くなります。



信号入力内部回路



ＡＣアダプタの接続

アダプタ本体をコンセントに差し込み、アダプタから伸びているコードのプラグを「電源」にさし込みます。
「電源ランプ」はACアダプタから電源供給が無いときでも内蔵電池から電気が供給されて、「電源スイッチ」ONにすると、点灯します。
制御盤内部のACコンセントを利用する場合、ACコンセントに電気が来ていない事があります。
制御盤内部のブレーカーやスイッチでコンセント電源を入り切り出来る場合はご注意ください。
内蔵電池を取り外してから「電源スイッチ」をONにしたとき「電源ランプ」が点灯すればコンセントに電気がきています。

運転の開始

実際に現場に取り付けて使用するときは、次のことに注意してください
・「STOP」「PLAY」「REC」ボタンを押さないで下さい。通常の監視状態でも録音再生が可能になっていますが、音声再生中や録音中は通報できません。
・運用中はイヤホンを挿したり抜いたりしないでください。
・音声チャンネルは０にしてください。

通報の受信

受信装置

音声通報、タダ電通報を受信できるのは、一般電話機、携帯電話、PHS です。
文字メッセージを受信できるのは、携帯電話、PHS、トーンモデムです。
発信する文字は「フリーメッセージ」「拡張フリーメッセージ」「区点コード」です。
使用する受信装置の説明書を見て、受信できる最大文字数が何文字かを確認してください。

音声通報を電話機で受信したとき

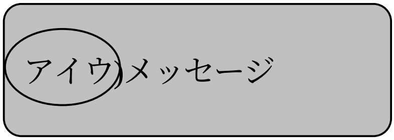
電話のベルが鳴ったら受話器をとります。最初に録音チャンネル０の音声が聞こえ、続いて該当する入力信号に対応する録音内容が聞こえます。受話器を上げている間繰り返します。
「WL110D」はダイヤルを開始してから、「WL110A」は通報先が受話器をとってから 120 秒を過ぎると、通報装置が電話を切ります。この場合はしばらく待つと再び電話がかかってきます。120 秒以内に受話器を下ろせば（受信した側で電話を切る）、通報装置は正しく相手に通報できたと認識して以後通報はしません。

携帯メールを通報先に指定した場合

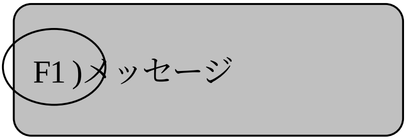
通報が終わると、センターから携帯電話にメッセージが送られます。時間帯によっては１分以上かかることもあります。

識別コード部の表示について

識別コードの後ろに")"が自動的に付加されます。これは、識別コードとその後ろに表示されるメッセージを見やすくするためです。 アイウ と入力した場合の例



Ｆ１ と入力した場合の例



識別コードは省略できます。

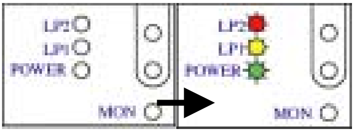
動作モニター

表示モニターランプ

起動時

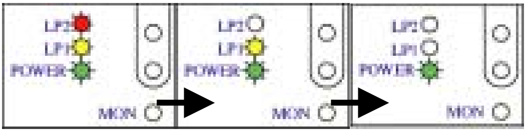
電源 ON で POWER ランプが点灯します。その他のランプは機種や動作によって変わります。

「WL110A」で回線の種類が「自動判定」の場合、電源 ON で LP1（黄）、LP2（赤）が点灯します。２つとも点灯した３秒後にどちらかが先に消え、その 0.5 秒後にもう一方も消えます。プッシュ回線なら LP2（赤）が先に消え、ダイヤル回線なら LP1（黄）が先に消えます。



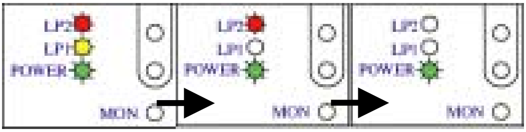
WL110A で電源 ON 時

回線の種類が「プッシュ回線」の場合、電源 ON で LP1（黄）、LP2（赤）が点灯します。0.5 秒後に LP2（赤）が先に消え、その後 LP1（黄）が消えます。



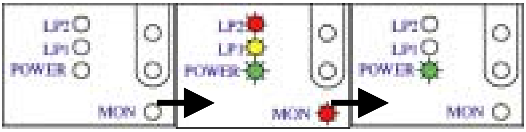
WL110A でプッシュ回線の場合

回線の種類が「ダイヤル回線」の場合、電源 ON で LP1（黄）、LP2（赤）が点灯します。0.5 秒後に LP1（黄）が先に消え、その後 LP2（赤）が消えます。



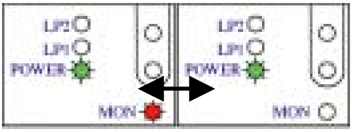
WL110A でダイヤル回線の場合

「WL110D」の場合、電源 ON で LP1（黄）、LP2（赤）、MON（赤）が点灯します。0.5 秒後に消灯します。



WL110D で電源 ON 時

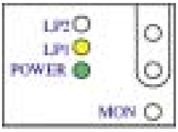
AC アダプターから電源が来ていなくて電池で動作している場合は、MON（赤）ランプが 10 回高速点滅します。



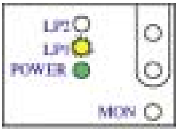
停電状態で起動(10 回高速点滅)

通報の状態から見たとき

1. 電話を接続中
   「LP1（黄）」点灯（受話器を上げたときから受話器を下ろすまでの間）
2. 話し中であったとき
   「LP1（黄）」高速点滅(３秒間)．このあと３項に進む
3. リダイヤル待機中
   「LP1（黄）」低速点滅(再ダイヤルを開始するまで)．待機時間終了で１項へ進む
4. 相手が電話に出なかったとき
   「LP2（赤）」高速点滅(３秒間). このあとで「LP1（黄）」が消灯する
5. 使われていない番号にかけたとき、または電波の状態が悪くて正しくダイヤル出来なかったとき
   発信開始で「LP1（黄）」が点灯し、しばらく待つと、「LP1（黄）」と「LP2（赤）」が両方とも高速点滅(３秒間)．この後「LP1（黄）」、「LP2（赤）」は消灯し、３項へ進む（相手先番号の確認が必要）
6. 通報終了
   発信先（相手）が受話器を取ってから通話後に受話器を下ろして通報が終わったとき
   「LP1（黄）」は消灯し、「LP2（赤）」が一定時間高速点滅します。その後 「LP2（赤）」 は消灯します。

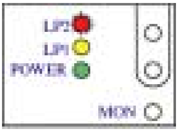


1.7.電話を接続中
LP1 点灯

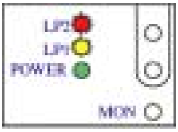


2.話中
LP1 高速点滅

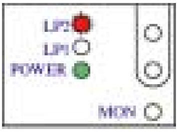
3.リダイヤル待機
LP2 低速点滅



4.相手が電話に出なかった。LP1 点灯。
LP2 高速点滅。



5.正常に通報出来なかった場合。
LP1,LP2 高速点滅



6.通報終了
LP2 高速点滅

7. 携帯プラグやモジュラープラグが携帯電話機や電話回線に接続されていないとき
   発信時に「LP1（黄）」が点灯しダイヤルを開始します。「LP1（黄）」のランプは点灯したままの状態となります。
8. 設定モードのとき
   「LP1（黄）」、「LP2（赤）」とも点灯
9. 携帯電話機のバッテリーが無い場合
   通報しようとしたら携帯電話のバッテリーが無くなっていて通報できない場合、10分間、携帯電話機の電源をOFFにして充電を行います。このとき「LP1（黄）」、「LP2（赤）」が一緒に0.5秒毎に点滅します。10分後、通常の通報動作に戻ります。

ランプの点灯状態から見たとき

LP1（黄）	**LP2（赤）**	**通報の状態**
消灯	消灯	電話が切れている。通報は全て完了している。入力信号待ちの状態
点灯	消灯	電話をかけているとき。電話がかかってきたとき。着信処理中。
低速点滅	消灯	再ダイヤル待機中
高速点滅	消灯	話し中の時
点灯	点灯	設定モードのとき
消灯	高速点滅	通報が正常に終わった後の6秒間の間。 状態の確認が終わった後の6秒間の間。
点灯	高速点滅	一定時間待っても相手が電話に出なくて通報装置が電話を切った後の３秒間の間
高速点滅	高速点滅	使われていない番号にかけたとき。 電波の状態が悪くて正しくダイヤル出来なかったとき。 メール送信中に途中で回線が切れてしまったとき。
0.5秒点滅	0.5秒点滅	携帯電話へ緊急充電中

停電保証について

充電式電池が新品の場合で、完全充電されている状態では2時間以上動作します。入力端子が全てOFFで音声通報を10回程度行った場合です。入力がONでLEDが点灯している場合や、センサー用電源を使用している場合は、その分電力を消費しますので、保証時間は短くなります。

内蔵電池

製品に内蔵の電池は、ニッケル水素充電池です。

内蔵電池の充電はＡＣアダプタが正しく接続され、商用電源が供給されているときは「電源スイッチ」が OFF でも充電しています。充電はトリクル充電方式により、過充電にならない程度に弱い充電を常時行っております。電気代はわずかですが、長期間にわたって通報装置として使用されないときは AC アダプタをコンセントから抜いておかれることをお勧めします。

手動で、停電状態（AC アダプタのプラグを抜いた状態）にして、停電保証が必要な時間内に電源ランプが暗くなるようでしたら交換が必要です。

AC アダプタから電源を供給せずに「電源スイッチ」を ON にしてお使いになるような場合や、停電が長引いて電池の電圧が完全になくなったときは、完全充電までに 72 時間以上かかることがあります。

電池の交換をするときは、ケース裏面の電池蓋をスライドさせて蓋をはずしてください。電池は、ニッケル水素充電池　006P 型、9V 仕様　または ニッカド充電池の 006P 型、8.4V 仕様のものが使用できます。電池はホームセンターなどで入手できます。ニッカド充電池をご使用の場合、停電保証時間が短くなります。

タイプ別に異なる部分

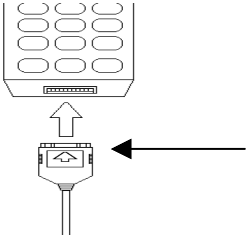
携帯タイプ「WL110D」

携帯電話機の設定

1．暗証番号またはロックコードを初期値（購入時の状態または設定されていないときの状態）例えば、「0000」などに変更して下さい。（このとき登録済みの番号を控えておいてください）携帯電話機の機種によってはこの設定が不要の場合があります。確認方法は動作確認後にこの設定を任意のものへ変更して正常に発信動作すれば初期値に設定する必要はありません。※暗証番号またはロックコードの設定方法は各携帯電話機の説明書をお読みください。
2．携帯電話機のバッテリー消費を抑える為、以下の設定をしてください。「省電力モード」にする。着信音時に音を鳴らさない、バイブレータの設定で振動させないにする。留守番電話機能は無効にする。

携帯電話機の接続

本体に付属の携帯ケーブルを接続して携帯プラグを携帯電話機のジャックに接続します。
コネクタは、「カチッ」と音がしてロックされるように差し込みます。
コネクタを外す場合はプラグ横のロックボタンをつまみながら引き抜いてください。
コネクタが接続されると、携帯電話機の電源が ON になります。(既に携帯電話機の電源が ON になっている場合は、ON のままです。)
携帯電話機の電源を OFF にしてからコネクタを接続すれば、コネクタの接続と同時に携帯電話機の電源が ON になるのでケーブルの接続確認が出来ます。



携帯電話機の機種によって、コネクタを差し込む上下面は異なります。

携帯電話機への充電

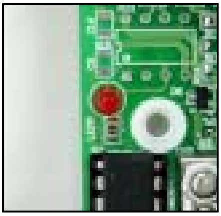
ＡＣアダプタから電源が供給されている場合に、定期的に充電します。
本体の電源をオンにすると10秒後に充電状態(120分間)となります。一定時間(およそ24時間)毎に充電を繰り返し行います。

参考：携帯電話機のバッテリィーは最大充電回数500回程度のものが多く使われています。
高度な自動充電回路を接続してもこの回数を越えることはできません。
従って本装置では最も単純で確実な定期充電方式を採用しております。
携帯電話機は、携帯の電池を取り外した状態では使用できないようになっています。

「WL110D」に携帯電話機を接続した状態では携帯の電池が寿命となっても引き続き利用できる場合がありますが、電源プラグを抜いたときに携帯電話機の電源が切れたり、電源が入らなくなったりしたときは携帯電話機の電池を新しいものに交換してください。

携帯電話の充電中に「WL110D」本体が暖かくなることがありますが、故障ではありません。

通報回数が多かったり、リダイヤルを繰り返したりして携帯電話の電池がなくなった場合、緊急充電モードになります。緊急充電モードになると、携帯電話機の電源をOFFにして充電を開始します。5分経過したら携帯電話機の電源をONにして通報を試みます。充電時間は120分間です。24時間毎の充電は通常通り行われます。



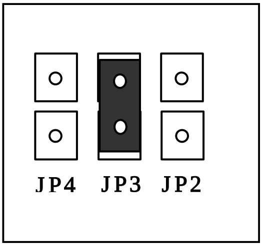
充電の動作は内部のLEDで確認できます。
1回点滅を繰り返す場合、待機中。
2回点滅を繰り返す場合、24時間毎の充電中。
3回点滅を繰り返す場合、緊急充電中。

※停電時(ACアダプターから電気がきていない)の場合、携帯電話機への充電はできません。

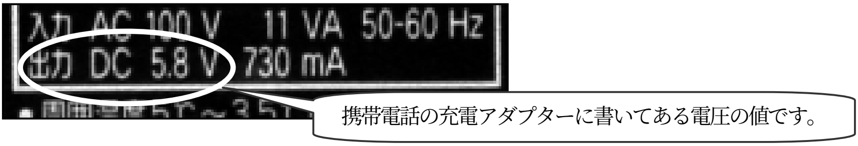
携帯電話機の充電電圧の設定

携帯電話機を外して電源をOFFにしてから設定作業を行ってください。
本体のケースを開けると基板上に「JP2」「JP3」「JP4」のショートバーがあります。このショートバーで携帯電話機の充電電圧を設定します。

名前	充電電圧	携帯電話機付属のＡＣアダプタに記載の電圧	
JP2	5.4V	～5.4V	
JP3	5.6V	5.5V～5.7V	出荷時
JP4	5.8V	5.8V～	



使用する携帯電話機の充電用ＡＣアダプターに書いてある電圧の値が、上表での電圧の範囲内にある充電電圧を選んでください。
※携帯電話機のバッテリーに書いてある電圧ではありません。



通報の手順

ここでは、「WL110D」がどのように仕事をしているか、手順を説明します。

●入力信号 ON
●受話器を取る
●「LP1（黄）」点灯
●ダイヤルを開始する
●相手のベルが鳴るまで待つ（制限時間最大15秒）
　△制限時間になった（待ったがベルが鳴らない）
　　→「LP1（黄）」、「LP2（赤）」を３秒間高速点滅 → **<リダイヤル>**へ
　△話し中　→「LP1（黄）」３秒間高速点滅 → **<リダイヤル>**へ
　△圏外・電源断　→「LP1（黄）」、「LP2（赤）」を３秒間高速点滅→**<リダイヤル>**へ
●相手のベルが鳴った。（ここからは、設定された通報先により異なります）

<音声通報の場合>
●最大120秒間相手が電話に出るまでベルを鳴らし続ける
●相手が電話を取り、内容を聞いてから受話器を下ろしたか調べる
　△相手が電話を切った
　　→「LP1（黄）」消灯 →「LP2（赤）」高速点滅6秒間 → **<通報終了確認>**へ
　△制限時間オーバー（最大通話時間になった）
　　ベルを鳴らし始めてから120秒経過するか、相手が受話器を上げても120秒以内に受話器を下ろさないと電話を切る
　　→ **<リダイヤル>** へ。

<携帯メールの場合>
●「*こちらは…メールセンターです*」のアナウンスが始まるまで待つ（15秒）
●通報先の電話番号を送信する
●「*送信するメッセージを入力してください*」のアナウンスを待つ（10秒）
●メッセージを送る
●「*電話を切ってお待ちください*」のアナウンスが始まるまで待つ（15秒）
●受話器を下ろす

●下記の情報が得られるまで待つ（制限時間最大120秒）
　△通話が正常に完了した
　　→「LP1（黄色）」消灯→LP2（赤色）」高速点滅6秒間→**<通報終了確認>**へ
　△制限時間オーバー（通話ができなかった）
　　→「LP2（赤色）」高速点滅3秒間→**<リダイヤル>**へ
※携帯メールセンターの種類によって手順や時間、アナウンスは異なります。

<リダイヤル>
●受話器を下ろす
●「LP1（黄）」消灯
●「LP1（黄）」低速点滅しながら再ダイヤルまで待つ（10秒）
●通報未完了が２ヵ所以上の場合は、次の通報先の電話番号をセットして **<受話器を取る>** へ
　通報未完了が１ヵ所の場合は、通報先はそのままで **<受話器を取る>** へ

<通報終了確認>
●通報終了条件(詳細説明は20ページ)により、通報を完了していない通報先がある場合は、その通報先の電話番号をセットして **<ダイヤルを開始する>** へ
●通報をする通報先がない場合は、通報終了

使用上の注意事項

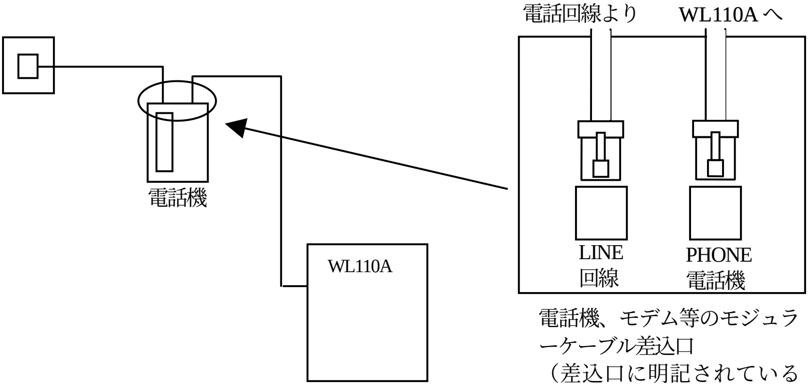
・通報中に携帯電話機のボタン操作をしたり、携帯のプラグを抜き取ったりした場合は誤動作します。

・**JP2～4 のジャンパーを抜いた状態にすると携帯電話機が壊れますので注意してください。**

一般回線タイプ「WL110A」

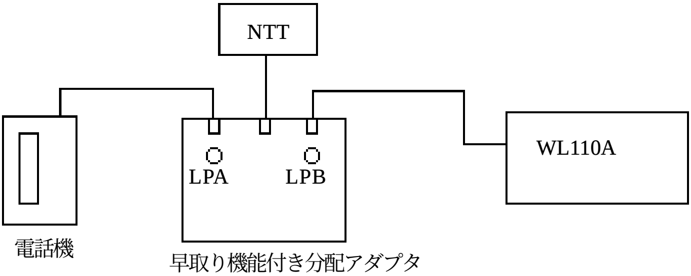
他の電話機やFAXなどの回線と併用するとき

本製品を既設の電話機やモデムの回線と併用するときは、終端に接続されるか、モジュラージャックを分配するアダプタをご使用下さい。
以下は、「WL110A」を電話回線の終端に接続する場合です。



電話機、モデム等のモジュラーケーブル差込口
（差込口に明記されているLINEや、PHONE等の文字は、必ずしも上記と同じものとは限りません。ご使用の機器の接続方式に従ってモジュラーケーブルを接続して下さい。）

電話回線からきているモジュラーケーブルを分配出来ない場合でも、モジュラージャック分配用のアダプタを使用することにより、他の機器に電話回線を分配することが出来ます。
ただし、単純な分配用アダプタを使用した場合、通報中に電話機の受話器を上げた時に通報内容やプッシュトーンが聞こえ、混信によって通報が正しく行われなくなる可能性があります。
このようなことを防止する為、アダプタは早取り機能（先に電話回線を使用している機器以外の機器が電話回線を使用することを禁止する機能）を持ったタイプを使用して下さい（ホームセンターなどで販売しています）。



通報の手順

ここでは「WL110A」がどのように仕事をしているか、手順を説明します。

●入力信号 ON
●受話器を取る
●「LP1（黄）」点灯
●ダイヤルを開始する
●相手が電話に出るまで待つ（制限時間最大30秒）
　△制限時間になった（待ったが電話に出ない）
　　　　→ 「LP1（黄）」、「LP2（赤）」を2秒間高速点滅 → **<リダイヤル>**へ
　△相手が電話に出た（ここからは、設定された通報先により異なります）

<音声通報の場合>
●下記の情報が得られるまで待つ（最大120秒）
　△相手が電話を切ったか調べる
　　　　○相手が電話を切った
　　　　　　→ 「LP1（黄）」消灯 → 「LP2（赤）」高速点滅6秒間
　　　　　　→ **<通報終了確認>** へ
　　　　○制限時間オーバー（最大通話時間になった）
　　　　　　→ **<リダイヤル>** へ

<携帯メールの場合>
●「*こちらは…メールセンターです*」のアナウンスが始まるまで待つ（15秒）
●通報先の電話番号を送信する
●「*送信するメッセージを入力してください*」のアナウンスを待つ（10秒）
●メッセージを送る
●「*電話を切ってお待ちください*」のアナウンスが始まるまで待つ（15秒）
●受話器を下ろす
●下記の情報が得られるまで待つ（制限時間最大120秒）
　△通話が正常に完了した
　　　　→「LP1（黄）」消灯→LP2（赤）」高速点滅6秒間→**<通報終了確認>**へ
　△制限時間オーバー（通話ができなかった）
　　　　→「LP2（赤）」高速点滅3秒間→**<リダイヤル>**へ
※携帯メールセンターの種類によって手順や時間、アナウンスは異なります。

<リダイヤル>

●受話器を下ろす

●「LP1（黄)」消灯

●「LP1（黄)」低速点滅しながら再ダイヤルまで待つ（10秒）

●時間が来たら最初に戻って **<受話器を取る>** へ

<通報終了確認>

●通報終了条件(詳細説明は20ページ)により、通報を完了していない通報先がある場合は、その通報先の電話番号をセットして **<受話器を取る>** へ

●通報をする通報先がなくなった場合は、通報終了

Q＆A　困ったときにご覧下さい

携帯タイプ「WL110D」

Q. **携帯電話機の電源を切ることが出来ないのですが**
A. 携帯プラグを抜いてから電源を切る操作をしてください。

Q. **本体が通報中に電話を切るにはどうしたら良いのですか。本体の電源をOFFにしても電話が切れないのですが。**
A. 携帯電話機の電話を切るボタンを押してください。これで電話が切れますが、本体の電源をOFFにしないと、リダイヤルしますから本体の電源もOFFにしてください。

Q. **本体の電源をONにすると必ず携帯の充電が始まるのですが**
A. 正常です。本装置は、本体の電源をONにしたとき、充電から監視するように作られているからです。

Q. **録音した音声で通報を受信したときの音質は本体からイヤホンで再生したときと比べて音質が悪いのですが**
A. デジタル携帯電話機の音質が悪いためです。本装置の問題ではありません。

Q. **本体にモジュラージャックが付いていますが、使えますか？**
A. ご利用になれません。付いているだけです。

Q. **市販されている携帯ケーブル（パソコンのシリアルと携帯電話を接続するケーブル）を携帯コネクタに挿して使用できますか？**
A. 配線が違うので、ご利用になれません。また、付属の携帯ケーブルを、パソコンと携帯電話を接続するケーブルとしては使用できません。

Q. **携帯電話機は付属品ですか？**
A. 付属しておりません。別途ご準備ください。

Q. **装置を取り付けるところでは携帯電話が圏外となるのですが。**
A. 「WL110D」携帯電話機タイプは携帯電話が圏外の場所ではご利用になれません。「WL110A」一般回線タイプは、取り付ける場所が圏外でも電話回線との接続が可能な場所であれば問題ありません。

Q. **PHS を装置に取り付けることができますか？**
A. できません。

Q. **受信装置に PHS が使えますか？**
A. 利用可能です。

Q. 発信者番号が表示されず、非通知になってしまいます。
A. 携帯電話機の設定で通知する様にするか、WL110 の設定ソフトで通報先の電話番号の最初に「186」を付けて下さい。

Q. 通報先の電話に誰も出ない場合はどうなりますか？
A. 電話をかけ、120 秒間電話に相手が出なければ、電話を切ります。10 秒待機して、また電話をかけます。以後その繰り返しです。(リダイヤルの設定による)

Q. 接続する携帯電話機で必要な契約はありますか？
A. ありません。音声で電話をかけたり受けたりできれば良いです。i モード契約などは必要ありません。もちろん、携帯メールで受信する必要のある通報先の携帯電話機には対応したサービスの契約が必要です。

Q. 携帯電話と本体を接続するケーブルを延長できますか？
A. できません。長くするとノイズが入り正常に通信できなくなる可能性があります。

一般回線タイプ「WL110A」

Q. 電話がつながらない
A. ビジネスホン、ホームテレホン、４線式電話機、デジタル PBX は接続することは出来ません。アナログPBX交換機を介した接続についての注意は、9ページの「制限事項」をご覧ください。また、普通の電話機(一般家庭で使われている電話機です)を接続して使用できるか調べてください。交換機によっては、電話をかける場合特殊な番号、たとえば「#9」などを最初にダイヤルしないとかからないものもあります。

Q. 本体に携帯コネクタが付いていますが、使えますか？
A. ご利用になれません。付いているだけです。

Q. 装置を取り付けるところに電話が引けないのですが。
A. 一般回線が引けない場所や回線の工事費用がかかるようなときには、「WL110D」 携帯電話機タイプをご利用ください。最近では新たに電話回線を新設する場合に比べ携帯電話機の初期費用が安くなっています。

Q. 装置はISDN回線を使用できますか？
A. 「WL110A」一般回線タイプは、ISDN回線に直接接続することは出来ません。ターミナルアダプターのアナログポートをお使い下さい。

Q. 内線発信に対応していますか？
A. PBXで使用される場合、下記のすべての条件と一致するか確認してください。

- 受話器を上げたとき→DT(発信音)…400Hzの連続、または、PDT(内線発信音)…400Hz 0.25秒 ON 0.25秒OFFが聞こえること。
- 相手が話中のとき→BT(話中音)…400Hz 0.5秒ON 0.5秒OFFが聞こえること。
- 相手を呼び出しているとき→RBT(呼出音(プルプル音))…400Hz 1秒ON 2秒OFFが聞こえること。
- 相手が電話を切断したとき→BT(話中音)…400Hz 0.5秒ON 0.5秒OFFが聞こえること。

Q. PBXで電話がかかりません。

A. PBXで使用する場合、回線の種類の自動判定（パルスかトーンの判定）がうまく出来ない場合があります。その場合は設定ソフトで使用される回線の種類を「プッシュ回線」か「ダイヤル回線」で指定してください。

Q. 社内の内線が０発信ではなく「＊０」で外線に発信するようになっています。対応できますか？

A.「＊０」による外線発信は可能です。設定ソフトの「外線発信番号」ボタンを押して入力すると「０,,」と電話番号の先頭に入力されます。その後で「＊０,,」に修正してください。「,」は0.5秒待つという意味ですので待ち時間がもっと必要なら「,」を追加してください。

Q. １本の電話回線で複数のWL110Aを使用したいのですが。

A. 電話自動転換器を使用すれば可能です。最初に受話器を上げた回線が有効になり、他の回線に割り込ませないことで可能となります。

Q. 通報を受けたとき音声がすぐに再生されません。

A. 通報先が電話に出たのか判定するのに呼出音が３秒以上聞こえないことを確認している為です。呼出音が鳴るタイミングにもよりますが、受話器をあげてから１秒～３秒後に音声メッセージが流れ始めます。

Q. 電話に出ても何回も通報してきます。

A. 録音をやり直すか、他の人に録音してもらってください。録音するとき音声の後に無音状態を２秒入れておくと解決する場合があります。WL110Aは、呼出音が鳴らなくなったのを確認して相手が電話に出たと判断します。また話中音が聞こえるのを確認したら、相手が電話を切ったと判断します。すべて音で判定しているため、録音された音声に呼出音や話中音と同じ400Hz前後の音が混じっていると、正確に判定できない場合があります。

Q. 呼出音が鳴りすぐ受話器を取ると、また電話がかかってくる

A. 呼出音を２回以上鳴らしてから受話器を取ってください。受話器を取るのが早すぎると、回線異常とみなし、もう一度電話をかけてきます。

Q. 通報先の電話に誰も出ない場合はどうなりますか？

A. 電話をかけ、30秒間呼出音を鳴らして、電話を切ります。10秒待機して、また電話をかけます。以後その繰り返しです。(リダイヤルの設定による)

Q. 音声通報で通報先の電話に出たのに無音のままです。

A. 通報装置が呼出音を検出できないため、音声の再生が始まらない状態です。呼出音が２回以上鳴ってから電話をとってください。また、携帯電話へ電話をかけた場合などに「おかけになった電話はただいま呼び出しています。しばらくお待ち下さい。」とアナウンスが流れる場合があります。このときは通報先の呼出音が鳴っているのに、電話をかけた側には呼出音が聞こえない状態があります。この場合、通報先では５回くらい呼出音を鳴らしてから電話に出ないと、正常通報になりません。

タイプ共通

一般的なご質問

Q.「**WL110A**」と「**WL110D**」を区別する方法は？
A. 電源スイッチを入れて「MON ランプ」が点灯する場合は「WL110D」です。点灯しない場合は「WL110A」です。

Q. 現在使われていない電話番号に通報するとどうなりますか？
A. 通報装置は、登録された電話番号が正しく設定されているかどうか認識できません。従って、誤った電話番号を登録されると内容によっては多額の電話代がかかったりする場合があります。ご利用の前には設定後に動作試験を必ず実施してからご使用下さい。

Q. 一般回線用と携帯電話機用の兼用タイプの製品がありますか？
A. ありません。コストダウンの為に別々としました。

Q. 保証はありますか？
A. はい、ご購入後１年間です。

Q. 取り付けは素人でも出来ますか？
A. 侵入通報の用途で、ドアセンサーなどを接続する場合は簡単に取り付けできます。制御盤などに取り付けるときは、電気工事業者にご相談ください。

Q. 装置を取り付けるところに電源が無いのですが。
A. 別売りのプラグ付き電源ケーブルと、充電された自動車用バッテリィーを使うことで長期間の連続利用が可能です。バックアップ電池だけで動作させた場合は、2 時間程度ご利用になれますが、携帯電話機への自動充電機能は動作しません。

Q. 装置の寿命は、どれくらいですか？
A. 故障するケースで最も多いと考えられるのは電話回線や電源からカミナリが入る場合ですが、これはモデム通信装置などでも同様です。防止策としては回線用避雷器や電源避雷器の市販品を組み込むことで改善されます。「WL110D」携帯電話機タイプは、「WL110A」一般回線タイプとくらべてカミナリの影響は受けにくいと言えます。「WL110A」内部の部品に機械的な接点を使用していませんので、長寿命です。「WL110D」は約 10 年です。

Q. 業務用に使った場合に問題はありませんか？
A. まったく問題ありません。

Q. どの位の大きさですか？
A. ケーブルや突起部分を除いて、縦 135 x 横 90 x 厚み 35 （mm）です。

Q. 設置後 **WL110** が動作しているのを確かめたいのですが。
A.「WL110D」に電話をかけると動作していることを音声で確認できます。この場合、設定で状態を確認するを許可しておく必要があります。23ページの「状態の確認」を参照してください。「WL110A」では確認できません。

Q.　屋外に設置したいのですが。
A.　製品は、防水暴雨仕様ではありません。水滴や、雨、粉塵等に晒される場所では適当なケースに組み込んでください。

Q.　誤動作などで電話代が多く請求されるようなことはありませんか？
A.　１．電話の仕組みとして相手が電話に出なければ当然電話代はかかりません
２．電話を受けた側が電話を切ればその時点から電話代はかかりません
３．携帯メールセンターに電話をかけたときには一定時間が経過するとサービス会社の側から電話を切りますのでそれ以上電話代はかかりません。但し、**通報先**の設定がショートメールを受信出来ない番号(ショートメールサービスを契約していない、ショートメール拒否設定になっている、解約等で番号が存在しなくなった、その他)の場合でリダイヤル回数が無制限の時、多額の電話代が請求される事がございます、必ず設定時の確認、また**通報先**に登録してある携帯電話の解約時、ショートメールサービス停止時の通報装置の設定変更を行ってください。ショートメール受信が出来ない電話機に対するショートメール通報によって多額の電話代が請求された場合、弊社は一切その責任をおいかねますので、あらかじめご了承ください。
４．リダイヤル回数も設定できますので安心です。
上の２番目の場合に受話器を正しく戻さなかったときでも一定時間(120 秒)経過すると電話を切るようになっています。いずれの場合であっても誤動作によって電話代が多くかかることはありません。安心してご利用ください。(必ず、安全にお使いいただくためにをご覧ください)

Q.　センサー用電圧が出ないのですが？
A.　「+V」端子は、外部センサーなどの電源に利用するための電源出力ですが、出荷時には電圧が出ておりません。ケースの蓋を開けると、「JP1」のジャンパーがあります。このジャンパーで「出力無し」、「DC5V」、「アダプタの出力をそのまま」の切り替えができます。55ページの「センサー用電源+V 端子」を参照してください。

Q.　付属の充電池はどれくらいの期間使用できますか？
A.　2 年以上使用できます。もし、停電状態（AC アダプタのプラグを抜いた状態）にして、停電保証が必要な時間内に電源ランプが暗くなるようでしたら交換が必要です。

Q.　以前購入した時と、今回購入した時と付属の AC アダプターが違うのですが。
A.　製造中止や、その他の理由により付属品が変わる場合があります。

Q.　付属されたＡＣアダプターとは別のＡＣアダプターを使用したいのですが。
A.　付属品以外のＡＣアダプターを使用されますと動作保証外となり、保障が効かなくなりますのでおやめください。

Q.　無電圧接点を１０ｍくらいの線で入力させても問題ありませんか?
A.　問題ありません。

Q.　通信ケーブルをなくしてしまったのですが。
A.　RS232C ストレートケーブルです。コネクタはD-sub9pin オス―D-sub9pin メスです。パソコン等を取り扱っているお店で購入できます。

Q.　ＤＣアダプター「DC-ADV01」を使うと停電保障電池に充電が出来ないのですが。
A.　はい、出来ません。２４Vを９Vに変換するアダプターを使用すれば可能です。

Q.　１つの入力接点に２つのセンサーを接続できますか？
A.　できません。

Q.　１つのセンサーを２台の WL110 に接続できますか？
A.　できません。

通報・設定についてのご質問

Q. 音声録音された内容をイヤホンでモニターしたとき、前より音質が悪くなりました。
A. 携帯プラグが携帯電話機に接続されていると再生時の音質が悪くなります。また、AC アダプタを使わず、内蔵電池のみで使った場合に電池の残り電圧が不足していると音質が悪くなります。

Q. 通報を受けたとき、入力信号のどれがONになっても同じメッセージが聞こえるのですが
A. メッセージ録音時に、録音チャンネル 0 だけで録音していませんか。本説明書の「動作設定」「録音再生」をご覧になり設定方法を確認して下さい。

Q. 接点毎に異なる通報先を指定したいのですが？
A. できません。要望が多ければ検討します。

Q. 発信者番号を通知するには？
A. 音声通報、タダ電通報の場合は、通報先の電話番号の先頭に「186」を入力してください。携帯メールの場合は「186」を入力しないで下さい。

Q. タダ電通報で呼出音が鳴る回数を指定したい
A. できません。呼出音が鳴ったと判定されたら電話を切ります。通報先の電話機の着信履歴に残すことを目的にしています。

Q. クイックキャストに送信したいのですが
A. 2004 年 6 月 30 日でクイックキャストの新規契約が停止されテスト環境が用意できないため未対応です。

Q. 音声録音再生はどのようにして行うのですか？
A. 録音、停止、再生の各ボタンと録音再生中を示すランプがあって、普通のテープレコーダーのように使います。本体上面に３つのボタンがあり、録音する場合は「録音」と「停止」ボタンを、再生する場合は「再生」ボタンを押して、付属のイヤホンマイクで録音します。

Q. マイクやスピーカーは付属していますか？
A. はい、イヤホンマイクが付属しています。

Q. １回の通信に要する時間はどれくらいですか？
A. 文字メッセージで通報するときは、文字数により通話時間が変わります。全角 1 文字送信するのに 2 秒、半角 1 文字送信するのに 1 秒かかります。10 文字の全角文字メッセージを送信する場合は、電話をかけたり、切ったりする時間を含めて 40 秒程度です。音声通報の場合は受けた側が電話を切るまでです。

Q. 停電通報だけ電話がかかりません。
A. バックアップ電池の充電が不十分な場合、AC アダプターを抜くとランプは点灯しても電話をかけることができません。出荷時には付属のバックアップ電池には充電が十分されていませんので、本体を 72 時間通電させてください。バックアップ電池の充電が行われます。そのあとで停電通報させてみてください。

Q. 停電通報はありましたが、復電通報が12時間も遅れてきました。なぜでしょうか？

A. 通報先が複数あり、全て「必ず通報する」にしてあり、停電発生の通報が終了していなかったのではないでしょうか。全て「必ず通報する」にしてある場合、1箇所でも通報が終わらなければ永遠に通報しようと電話をかけ続けます（リダイヤルの設定による）。停電発生の通報が終了できないため、復電しても復電通報が来ないということになります。「必ず通報する」の設定をする通報先は、確実に電話を受けられる番号だけにしてください。夜は電源を切ってしまう携帯電話などを通報先に設定していると、この様なことがおこります。

Q. 携帯電話にタダ電通報をしていると何回も通報してくるのですが。

A. タダ電通報は呼出音が聞こえたら正常通報となりますので、呼出音が聞こえない状態では何回も電話をかけてしまいます。例えば通報先がドライブモードにしていると、呼出音が鳴らずにアナウンスだけが流れます。また、留守番電話サービスの呼出音の鳴る回数を０回にしていても、呼出音が鳴らないので何回も電話してしまいます。

Q. 通報時にノイズが入るのですが。

A. 入力接点に接続してあるものを外してください。制御盤に取り付けられている場合は外してください。それで外して見てノイズが出なければ、端子がアースになっていますのでそこからノイズが入っている可能性があります。また、モジュラーケーブルもノイズの影響を受けますのでシールドしてみてください。また、接点から直接ノイズが入っている場合にはリレーをかますなどしてノイズが入らないようにしてください。

Q. 停電保証時間を超えてから復電した場合、復電通報を行いますか？

A. 行いません。停電保証時間を超えてから復電した場合、電源をＯＮし直した時と同じ状態です。

携帯メールについてのご質問

Q. 携帯メールとは何ですか？

A. 携帯電話、PHS、一般回線電話などのプッシュトーンを送れる電話機から、各社携帯電話へ文字メッセージを送ることができます。電子メール（Ｅメール）ではありません。パソコンでは受け取れません。携帯電話で受信可能です。
携帯電話会社により名称は異なりますが、主なものは次項の通りです。

	ショートメール	スカイメール
プロバイダー	ドコモ	ボーダフォン
最大文字数	全角半角にかかわらず50文字	全角50文字
センター保存	72時間	72時間
発信者番号	通知可	通知されない
WL110で使用できる文字コード	フリーメッセージ(*2*2)、 区点コード(#)	区点コード(#)

Q. 携帯メールのメッセージが文字化けするのですが

A. 受信装置がメッセージを受信したとき、なんらかの電波ノイズが混入したときに起きる可能性があります。「WL110D」の場合、電波の状態が悪いために電話が途中で切れたときは、文字が表示されず、着信音が鳴るだけでメッセージが表示されないことがあります。この様な現象が頻繁に起きる場合は、2ヵ所の通報先に同一の携帯番号を設定して、2度呼出しを行うことで回避できる場合もあります。また、送信するメッセージが長すぎると文字化けしやすくなります。メッセージを短くしてみてください。

Q. ドコモの携帯に半角の小さいカタカナ「ｧｨｩｪｫｬｭｮｯ」を送信したい
A. できません。全角の小さいカタカナ「ァィゥェォャュョッ」なら送信できます。

Q. 携帯メールで通報させる設定をしたのに、通報できません。
A. いくつか原因が考えられます。
・「WL110D」にドコモの携帯電話を接続してショートメールで通報する場合、設定ソフトの「携帯メールセンター」の設定が「ショートメール(NTT ドコモから NTT ドコモ)」になっていない。
・「WL110D」にドコモ以外の携帯電話を接続してショートメール通報する場合や「WL21NA」でショートメール通報する場合に、設定ソフトの「携帯メールセンター」の設定が「ショートメール(NTT ドコモ)」になっていない。
・ショートメールで通報する場合、設定ソフトの「通報先の電話番号」の先頭に「186」が入力されている。

Q. 通報先をショートメールにしていると遅れて通報されることがあるのですが。
A. 携帯電話のメール自動受信は送信所から一度しか送信されません。また、定期的に再送されることもありません。何かのキッカケ（アクション）があるとそのときに未通知のメールが届きます。原因は電波の具合が悪くたまたま届かなかったものと考えられます。ドコモの場合は、各所にある送信アンテナを自動判別するようになっています。このため、山の山頂などではドコモは不具合の発生率が高いと聞いております。たまたまメール通知の電波が来たとき、電波のある程度強い場所でも、運悪くすぐ近くでたくさんの携帯電話が使われている場合など電波が分散されてしまい、遠くの送信アンテナを探しに行ったりします。滅多にはないことだと思いますが、電波を使う上で完全なものとはならないこともあります。

その他のご質問

Q. チップをバージョンアップしたら動作が変わってしまいました。
A. 設定ソフトで設定をやり直してください。設定データはバージョンアップ時に交換するチップに保存されています。チップを交換すれば以前の設定データは変わってしまいます。また、音声の録音時間も変わってしまいますので再度、録音してください。

Q. 2 秒間の無電圧接点出力のあるパッシブセンサーを使用できますか？
A. できます。700 ミリ秒以上(初期値)の間継続して ON(OFF)の時に、入力変化があったとみなし通報します。この時間は設定ソフトで変更可能です。

設定ソフト

Q. 設定ソフトは、Windows98 で使用できますか。
A. Windows98/Me/2000/XP で動作します。

Q. Windows2000でフロッピーディスクからインストールできません。

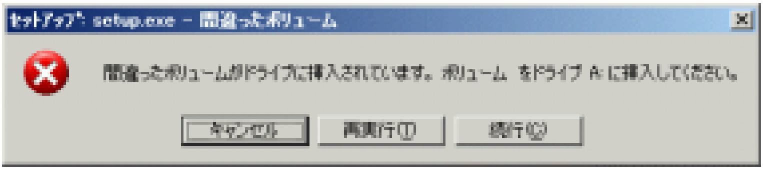
A. Windows2000に限らず、環境変数「TMP」「TEMP」に全角文字が含まれるフォルダが設定してある場合、フロッピーディスクからのインストールができません。

【対策1】2枚のフロッピーディスクから4つ全てのファイルをハードディスク上の同一フォルダにコピーします。例えば「C:¥TMP」に全てのファイルをコピーしてからコピーした「setup.exe」を実行してください。

【対策2】環境変数を変更して全角文字が無いフォルダに変更する。

Q. WindowsXPでフロッピーディスクからインストールする場合。

A. 以下のメッセージが表示されますが、[続行]を選択してください。



Q. 設定ソフトはついていないのですか？

A. はい、ついていません。弊社ホームページ「http://www.adocon.co.jp」又は「http://www.adocon.co.jp」の「設定ソフト」からWhiteLock110のファイルをダウンロードし、任意のドライブに保存した後、ダブルクイックして実行してください。セットアッププログラムが実行されます。設定方法については27ページの「設定ソフトのインストール」からご覧下さい。

こんなときには

設定ソフトウェアのアンインストール

[スタート]メニューの、[設定(S)] から [コントロールパネル(C)]を選択して「コントロールパネル」を開きます。

コントロールパネルの「アプリケーションの追加と削除」をダブルクリックします。

削除したいプログラム(WhiteLock110 設定 プログラム)を選択して、[変更と削除] ボタンをクリックして画面の指示に従います。

本体を清掃するときは

本体のよごれは、やわらかい布に水または中性洗剤を含ませて軽く拭いてください。
ベンジン、シンナーなど（揮発性のもの）や薬品を用いて拭いたりしますと、有害なガスが発生したり、変形や変色の原因になることがあります。

Ａタイプ・Ｄタイプ共通仕様

「White Lock 110」本体

形式	音声及びDTMF呼出方式非常通報装置
適用回線	「WL110D」：デジタル携帯電話 「WL110A」：NTT仕様のアナログ電話回線(2線式)
回線接続方式	「WL110D」：デジタル携帯電話コネクタ（ＰＤＣ） 「WL110A」：通信コネクタ（モジュラージャック）
選択信号種別	プッシュボタン（PB）または、ダイヤルパルス（DP:20PPS） (「WL110Ａ」のみ)
動作設定	専用パソコンソフトで設定条件等をシリアル転送する
信号入力点数	4点（無電圧接点、オープンコレクタ）
停電復電検出機能	本体内部に停電復電検出機能搭載
自動発信	入力変化
携帯メール発信	可（英数カナ漢字でメッセージを送出）
話し中検知機能	あり（話し中及び通信が確立しないときにリダイヤル）
音声録音方式	圧縮無し直接録音方式
音声録音時間	8チャンネル装備。1チャンネル20秒、合計160秒
音声メモリバックアップ	不要（フラッシュメモリー）
録音再生方法	イヤホンマイクを装備。録音・停止・再生ボタンによる
停電保証	内蔵電池により、2時間以上
携帯電話機充電機能	あり、繰り返し充電方式(「WL110D」のみ)
制御ＣＰＵ	8ビット2個のマルチCPU
外部インターフェース	シリアル９ピン(EIA-574)
電源	ACアダプタ AC100V 50/60Hz 5W
動作温度	０℃～４０℃
動作湿度	１５％～８０％（結露なきこと）
周囲環境	腐食性ガスなきこと。 粉塵等汚れの激しい場所での使用は、カバー等で保護して下さい。
呼出電話番号設定	最大6ヵ所、ダイヤル桁数24桁
バックアップ用充電池	006P DC9V、ニッケル水素充電池
寸法（mm）	135(W) × 90(H) × 35(D)
重量	重量 約 230g　携帯電話機を除く、電池込みの本体重量
動作電圧	9.5V～10.0V
消費電流	WL110A：50mA（最大110mA） WL110D：50mA（最大550mA）

設定ソフトウェア

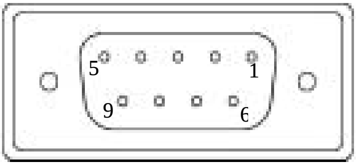
型式	White Lock 110 設定ソフトウェア
動作環境	Windows 98(SE)、Windows Me、Windows 2000(SP1以降)、WindowsXP 日本語のみ対応 メモリ 64M以上 ディスク空き容量 7M以上

インターフェース仕様

コネクタの形状は、９ピン仕様の EIA-574 です。

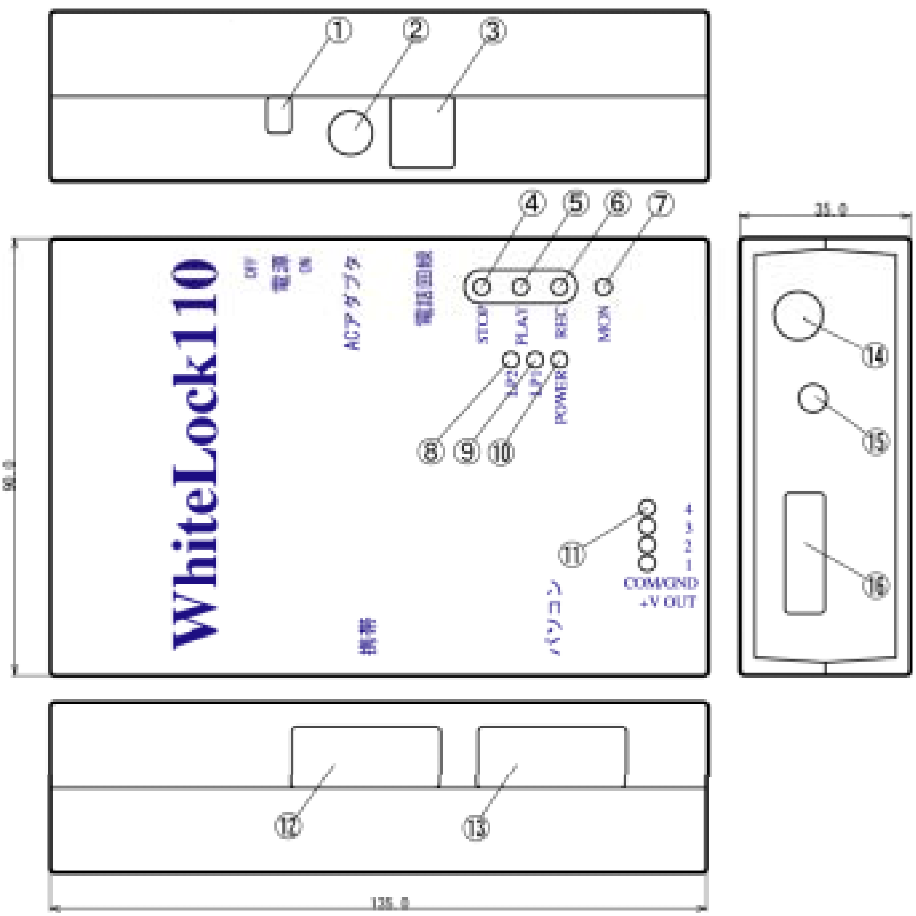
ピン記号	信号
1	ＣＤ
2	ＲＤ
3	ＴＤ
4	ＤＴＲ
5	ＧＮＤ
6	ＤＳＲ
7	ＲＴＳ
8	ＣＴＳ
9	ＲＩ

ピン番号は製品本体側を示す



設定に使用するパソコンが、このコネクタを装備していない機種の場合（ＰＣ－９８００シリーズ等）は、別途変換コネクタ(D-SUB25 ピン → D-SUB9 ピン)をお買い求め下さい。

外形図



1	電源スイッチ	9	動作ランプ　LP1
2	電源直流入力コネクタ	10	電源ランプ
3	電話回線モジュラージャック	11	外部信号入力モニタランプ
4	録音再生･停止押しボタンスイッチ	12	携帯ケーブル接続コネクタ
5	録音再生･再生押しボタンスイッチ	13	設定用シリアルコネクタ
6	録音再生･録音押しボタンスイッチ	14	録音再生･チャンネル切替スイッチ
7	動作モニタランプ	15	録音再生用イヤホンマイクジャック
8	動作ランプ　LP2	16	外部信号入力端子

付録

文字コード

・フリーメッセージ

1桁目＼2桁目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0
1	ｱ	ｲ	ｳ	ｴ	ｵ	A	B	C	D	E
2	ｶ	ｷ	ｸ	ｹ	ｺ	F	G	H	I	J
3	ｻ	ｼ	ｽ	ｾ	ｿ	K	L	M	N	O
4	ﾀ	ﾁ	ﾂ	ﾃ	ﾄ	P	Q	R	S	T
5	ﾅ	ﾆ	ﾇ	ﾈ	ﾉ	U	V	W	X	Y
6	ﾊ	ﾋ	ﾌ	ﾍ	ﾎ	Z	?	!	-	/
7	ﾏ	ﾐ	ﾑ	ﾒ	ﾓ	¥	&	🕒	☎	☕
8	ﾔ	(	ﾕ	)	ﾖ	*	#		♥	
9	ﾗ	ﾘ	ﾙ	ﾚ	ﾛ	1	2	3	4	5
0	ﾜ	ｦ	ﾝ	ﾞ	ﾟ	6	7	8	9	0

半角大文字英字、大文字カタカナ、数字、一部の記号が使えます。「＊２＊２」に続いて１桁目、２桁目をダイヤルする文字です。ショートメールで７８(時計)、７０(コップ)の文字は使用できません。

パソコンで直接入力できない文字を使用する場合、７８(時計)は「㊤」、７９(電話)は「℡」、７０(コップ)は「⊿」、８９(ハート)は「㊥」を入力してください。

・区点コード

全角文字です。「#」に続いて４桁の数字をダイヤルする文字です。使用できる文字は携帯電話の取扱説明書の区点コード一覧を参照してください。

更新履歴

Ver1.13 2006/11/21
- Q&A 追加、安全にお使いいただくために追加(電話番号の誤った登録についての注意追記)。

Ver1.12 2006/03/01
- Q&A 追加、安全にお使いいただくために追加(電話番号の誤った登録についての注意)。

Ver1.11 2006/02/04
- ホームページアドレスを追加。

Ver1.09 2005/03/31
- 携帯電話への充電関係の説明を修正。
- 住所を変更

Ver1.08 2004/10/13
- 例として載せていた電話番号を XXX に変更。

Ver1.07 2004/10/01
- ａｕのＣメールに関する項目を削除。
- 通報の種類／タダ電通報での料金を取られる場合の説明を追加
- 端子台コネクタの仕様を修正。
- 「オプション電源」の名称を「センサー用電源出力」に変更
- Ｑ＆Ａを追加。

Ver1.06 2004/07/16
- クイックキャストは未対応とした。

Ver1.05 2004/07/01
- 録音時の説明を追加
- Ｑ＆Ａを追加。

Ver1.04 2004/06/28
- 携帯メールの手順文字列を修正

Ver1.03 2004/06/01
- 携帯メールの手順文字列を修正
- 蓋を閉めるときの注意点を追加
- Ｑ＆Ａを修正。

Ver1.02 2004/04/17
- 作成

バージョン

「WhiteLock110」本体のバージョンと設定ソフトと取扱説明書のバージョン番号の対応です。

WL110A	WL110D	取扱説明書	設定ソフト	日付
Ver1.11	Ver1.16	Ver1.13	Ver1.0.3	2006/11/21
		Ver1.12		2006/03/01
		Ver1.11		2006/02/06
		Ver1.09		2005/03/31
		Ver1.08		2004/10/13
		Ver1.07		2004/10/01
		Ver1.06	Ver1.0.2	2004/07/16
		Ver1.05		2004/07/01
	Ver1.11	Ver1.04		2004/06/28
		Ver1.03		2004/06/01
Ver1.08	Ver1.10	Ver1.02	Ver1.0.2	2004/04/21

White Lock 110

本書 Ver 1.13

取扱説明書

改定　　２００６年　１１月

発行元	**株式会社　アドコン**
	http://www.adocon.co.jp/又はhttp://www.adocon.jp
本社	TEL (0852) 54-2036　FAX (0852) 54-2196
	〒690-2101 島根県松江市八雲町日吉 3-24
東京営業所	TEL (050) 8005-3069 FAX (03) 3784-1421
	〒142-0053 東京都品川区中延 5-7-16